

第4章 正しい勉強法を勉強しよう

この章からいよいよ君に勉強を始めてもらう。(ギク! ってしないでね)

いよいよ実際に勉強を始めてみよう。でも、何からはじめたらいいのかな? どうやってやるのかな? 色んな疑問、質問があるだろう。勉強が嫌いな人の多くは、勉強をする意味が分かっていないか、勉強のやり方がわからないかのどちらかなんだ。だからまずは「勉強とは何か」「勉強の仕組みはどうなっているのか」を説明してきた。勉強する意味については十分分かったと思う。

そしたら次は勉強の方法だ。「どうやって勉強したらいいか」の部分に注目しよう。まずは全体的な話、みんなに共通する勉強の基礎のやり方について説明する。そしてその後で受験勉強や、夢に向かっての勉強など、目的ごとの勉強法について説明していこうと思う。

1. 何を勉強したらいいのか?

僕は勉強と言うのは「世の中を知る事」だと言った。だから勉強する「科目」は何でもいいと思っっている。え? って思うかもしれないけど、本当に何でもいい。この世界は色々な物

事で溢れている。人も物もお金も、動物も植物も、地球も火星も太陽も、音楽も美術も書道も、建築もアニメもドラマも、戦争も軍縮も経済制裁だって・・・e t c、本当にこの世界には様々な「勉強する対象」がある。そのどれを教科にしたって構わないじゃないか。

君は今、何に興味を持っている？興味を持っていないものがあれば、そこから勉強をスタートしていこう。もし何にも興味を持っていないとすれば、それはきつとよく考えていないか、興味を持ってなくなってしまうかのどちらかだ。人はもともと好奇心を持っている話でしたね。その本能とも言うべき好奇心を使えなくなってしまうと勉強は苦しいだけのものになってしまう。人は一日24時間、生活しながら何かを見ている、誰かとつながっている、何かを使っている、世界とつながっているんだ。

まずは何かに「興味」を持つ。自分の身の回りにある様々なものに対し、ふつふつと沸き起こる好奇心、それが君が勉強する「科目」になる。そしてその好奇心から生まれた科目を、本を読んだり、実際に体験してみたりしながら深めていくというのが、正しい勉強のやり方なんだ。

君の身の回りにあるものは、全てそんな風に最初は誰かの興味や好奇心から生まれた様々な科目を、誰かが教科書や参考書を使って勉強し、仕事にまで磨き上げていった、その結果

なんだ。例えば君は、建築士が設計し大工さんが建てた家に住んでいる。デザイナーがデザインした服を着て、工場で働く人たちによって作られた家電製品を使って生活している。そして農家の人が栽培した食材を料理のプロであるお母さんに調理してもらって食事をしている。君が使う道具、君が食べる食事、君が受けるサービス、どれもその道を学んだ一流の人達が生み出したものだ。

その人達もかつては君と同じ一人の「学生」だった。みんな最初は何も出来ないところから始まり、勉強を重ねていく事によって人に喜ばれる仕事ができるようになっていった。最初から将来の道を見つけていた人もいれば、なかなか道を決められなかった人もいる。でも、どっちにしても人はみな、何らかの道を見つけて勉強していった。働いて仕事をしていかなければ生きていく事はできないから。

人はみな勉強しなければならぬ。その道に納得できようと納得できまいと、その科目が好きだろうが好きでなかるうが、勉強して人に提供できるレベルにまで高めなければ仕事にはならない。生徒達は「バイト(アルバイト)」を誰にでもできる簡単な仕事だと勘違いしているが、それは大きな間違いだ。アルバイトだって他の仕事と同様、会社に採用されたら、まずは研修を受け、挨拶の仕方から仕事のやり方まで徹底的にその仕事を教えられる。それ

ができなかったら、その人は会社にとって「使えない」からクビになる。

僕は色んなアルバイトを経験したが、高校生の頃やった引越し屋のバイトは厳しかった。実は僕も最初は「引越しなら荷物を運ぶだけだろ。簡単簡単」と高をくくっていた(泣)が、それは甘かった。引越しの仕事は、引越しをするお客さんの家に行き、タンスや冷蔵庫なんかを梱包してトラックに載せ、引越し先の新しい家まで運ぶんだけど、お客さんの家を間違えたらその日に引越しが終わらなくなってしまいうし、お客さんの持ち物に傷を付けたら賠償金が発生してしまうなど、決して遊びではできない現実が待っている。当たり前のことだけど、失敗は許されないのだ。(逆に君がお客さんだったら、そんな失敗だらけの引越し屋さんには頼みたくないよね)

だから徹底的に仕事を教えられる。高校生だった僕は車では地図を見て、運転する先輩をナビゲートする方法、家具の梱包の仕方から、運び方(階段での運び方やトラックへの載せ方など)、それに配置の方法まで、まさにお金をもらうにふさわしい「引越し」と言う科目を勉強したんだ。そしてそんな訓練を受けた僕たちが仕事を提供する事によって、お客さんは感謝し、お金を払ってくれた。その結果、僕は一日7千円のお給料を手にすることができた。

君は今学校で、掃除の時に机や椅子を引きずって運んで怒られていないか？トイレ掃除でふざけてホースで水を掛け合ったりしていないか？僕は怒られまくってた！（自慢じゃないけど）でも、同じ事を仕事でやったら絶対にお金はもらえない。（それどころか損害賠償を請求されるだろう）お金をもらうのは思っているほど簡単じゃないんだ。僕は高校生のときにそれを痛いほど感じた。

仕事はこんな風に日々の勉強を重ねてできるようになっていくものだ。アルバイトだろうと正社員だろうと、派遣だろうと日雇いだろうとそれは同じだ。どうせ働くなら、好きな勉強を生かして働きたい。そのために好きな勉強を積み重ねていきたい。僕はそう考える。だから、「何を勉強したらいいか」と言う質問の答えは「興味のあるものなら何でもいい」なんだ。

最初に勉強する科目を決めよう。その科目は「何でもいい」。
好きなもの、興味のあるものからどんどん勉強していこう！

2. 興味の持ち方

人は誰しも好奇心と言う本能を持ち、何にでも興味を持つ心を持っている。でもそれがいつの頃からか失われていく。子どもの頃は見るもの聞くもの全てに胸をときめかせていたのに、大人になると大してワクワクもしなくなる。

最近では小中学生でもそんな「オトナ」な子どもが多い。自分で体験する前に受験勉強などで世の中のことを情報としてたくさん知ってしまうから、大抵の事は知っているとゆう状態になってしまう。「詳しくは知らないけど、聞いたことはある。」これが一番好奇心を失くす病原菌だ。

元々人は自分で体験した事を知識として蓄積していく能力を持っている。

「わあ！すげえ！」「うひょー！おもしれえ！」

そんな体験が知識をより深く、強く脳に刻んでいく。だから人は体験から学んだ事を道具として使う事ができるんだ。

でも、道具は古くなる。磨いていなければ錆びて使い物にならなくなってしまふ。僕は大学時代に中国語を2年も勉強したが、その後一切中国語を使わなかったので今では「二ーハ

オ（こんにちは）」「シエイシエイ（ありがとう）」位しか言うことはできない（泣）逆に授業でも教えている英語は中1から始めて約20年間も勉強しているので、海外経験は少なくとも外国人と話せる程にまでなった。道具は「自分で」使い続けなければ役には立たない。その知識に驚きや興奮がなければ、道具として完成する事はない。勉強ってそういうものだ。じゃあどうしたら興味をもてるのか？

一つは先にも挙げた、好きなものから先に勉強する、というもの。最初から興味を持っているものを勉強すれば、それに関係するものを次々に増やしていける。

例えば工作など「ものづくり」に興味があるとする。学校では図工や美術の授業が大好き、家では牛乳パックや新聞紙などを材料に色んなものを作っている。そんな人は一流のプロが作った製品を勉強してみよう。工場に見学に行くと、君が普段使っているものが驚くべきスピードで次々と組み立てられていく様子を見ることが出来る。（社会科の勉強だね）さらにどうやって作るのかを追究していけば、制作の過程で数学や理科の知識が必要になってくる。実際その商品を開発・製造しているのは大学で理学（自然の法則や仕組みを研究する）や、工学（ものの仕組みや活用を研究する）、それを合わせた理工学を学んだ人達だ。単なる家で
の工作から、理工学部の大学生が生まれ、世界で愛される製品の開発者を生むかもしれない。

好きなものから勉強を始めると、ワクワクドキドキ感がハンパじゃないからそんな期待が持ててしまう。

相沢忠洋（1926年～1989年）と言う人を知っているかな？この人は日本にそれまで存在しなかったと言われる旧石器維持代を、石器の発掘によって証明した人だ。相沢さんが石器など考古学に興味を持ち始めたのは小学生の頃。宅地開発のために近所の野山が削られていった時、そこから大量の土器が出てきたそうさ。それを見て相沢さんは「それがいつの時代のもので、何に使われたものか」不思議に思った。また「焼きものもさることながら、夜、いろりの火をかこみながら家じゅうの人たちが話し合っただけで暮らしていたということが、心のなかにじいんとしみてくるのだった。」と言っている。この時相沢さんの好奇心は猛烈に反応していたんだらうね。

その後両親が離婚、一家は離散状態となり、相沢さんも住んでいた群馬県を離れ、東京浅草で小僧奉公（住み込みで働く事）を始める。その時浅草で通っていた帝室博物館（現在の東京国立博物館）で相沢さんは考古学に本格的にハマる。月に二回も訪ねてくる少年に興味を持った守衛さんと仲良しになり、この守衛さんから考古学を学ぶ事によって相沢さんは勉強を始めたんだ。



考古学に魅せられた少年は、日本史を塗りかえる大発見をした。
(岩宿遺跡にある相沢忠洋像)

れ、その功績は闇に葬られた。お金もなく地位もない相沢さんには功績を認めてもらう手段はなく、単なる「情報提供者」になっていた。それでも相沢さんは発掘を続けた。そして岩宿遺跡についての独自研究を発表し、ようやく世間にも認められるようになった。今では相沢忠洋の名前は日本史の教科書には必ず載っているし、入試でも「頻出」の人名だ。近所で発掘された土器に興味を持った少年は、とうとう歴史に名を刻んだ。

その後終戦を迎え、相沢さんは群馬に戻り、独自に発掘調査を行う。そして関東ローム層という地層の中から数々の石器を発見していった。発掘に都合がいいからと仕事は納豆の行商（各地を転々としながら商品を売り歩く仕事）をして、毎日土を掘る日々が続く。掘り当てた石器を見てもらうために相沢さんは毎日群馬から東京まで片道約120キロメートルの道程を往復した。背中に土器や石器を積みながら。ハンパじゃない！

そしてとうとう相沢さんは岩宿遺跡と言う旧石器時代の遺跡を発見し、日本の歴史を塗り替えた。でも当初は相沢さんが納豆の行商をしていたことから、学会ではアマチュア扱いさ

相沢さんに考古学を教えた先生が、こう語っている。

「**事実の集積と学問とは同一であって同一ではない。** 事実であつてもそれを学問のなかにとり入れるというのは容易ではなく、忍耐と努力、そして着実な勉強が大切である。そして、考古学という学問は、一カ所や二カ所の遺跡発掘報告書を仕上げても結論は出せない。より総合的な考察が必要である。井のなかの蛙にならず、考古学が好古学にならぬよう、着実におやりなさい。あなたにもきつと**事実の集積はできる。** そのことが**学問の基礎となり、勉強**ということなのです」(文中の言葉は相沢忠洋『岩宿の発見』より)

この言葉には僕が君に伝えたい勉強のやり方が全て表れている。勉強とは知識を集めて、それを自分の中で「使える」ように組みなおしていくと言う事だ。それが学問となり、生きていく道となる。今、学校で行われている勉強はその知識の集積に過ぎない。誰もが知識集めに夢中になり、驚く事もワクワクする事もなくひたすら用語や数字を丸暗記しているけど、それだけでは勉強にはならない。一つ一つの知識を好奇心で吸収しながら学ぶ事が勉強の正しいやり方なんだ。だからまずはワクワクしよう！もつともつと興味を持とう！

でも、もしも何にも興味を持ってないという人がいたらどうしよう。もしも子どもの頃のようにワクワクドキドキしなくなっている人がいたら確かに勉強は面白くない。やる気もおき



博物館や工場は勉強の
宝庫だ。できるだけ足を
運んでみよう。

工業製品もそうだ。僕の住んでいる千葉県は野田の醤油が有名で、キッコーマンの醤油工場に見学に行くと言った。教科書や本で知った情報を、現場に行つて確認する事で、もつと興味を持つ事ができるんだ。

ない(泣) それじゃあ困るよね。
そんな時は好奇心をくすぐってみよう。その方法を教えるよ。たいていの事を情報として知ってしまったっている現代っ子達は、自分でやってもみないうちから「知ってるよ。どうせこんな感じだろ」と高をくくってしまったっている。まずはそれをやめよう。身の回りのものを「当たり前」と思わずに「追究」してみるんだ。君が普段食べている物、それらは田んぼや畑で取れたものが市場で売られ、お店で売られて君の家に来てきているというのは当然知っているよね。じゃあ実際それを見に行こう！近くの田んぼに出かけてみよう。6月なら田植え、9月なら稲刈りをして様子を見学できるはずだ。さらに実際に農作業をしている人にインタビューして話を聞いてみると、君が知っている情報を確認することができ、もつと好奇心がくすぐられる。

僕が思うに、興味を持ってなくなってしまった大きな原因は、浅い情報ばかりが増えていつて、詳しく知っている「知識」と言うものが少なくなってしまったからだ。その反面、好きでやっているゲームやスポーツの情報は、とことん研究してちゃあんと「知識」にまで高めている。ポケモンの進化の過程やドラゴンクエストモンスターズのモンスターの配合パターン、ファイナルファンタジーの強い武器のありかなど、大人が聞いても全く意味の分からない話を小学生達がしている。彼らは「ゲームの世界」と言う教科では大人顔負けの勉強をしているんだ。だから勉強する能力は十分にある。それ位に他の勉強だって突き詰めて考えていけばいいんだ。

その一つは博物館や工場を徹底的に利用する事だ。「勉強は現場で起こっている！」（笑）と言う位、全ての勉強にはその道のプロフェッショナルがいる。歴史を勉強したら、歴史学物感へ行って生の史料を見よう。登呂遺跡、原爆ドーム、松下村塾、教科書に出てくるところに実際に行ってみると、単なる教科書の文字が生き生きとしてくるよ。理科を勉強したら科学博物館に行ってみよう。学校ではできない実験を生で見ることができるとぞ。

もちろんサッカーを勉強したい人は、サッカー場へ足を運んでプロの試合を見てみよう。その経験を日々の練習に活かす事でもっともっと大きく成長できるはずだ。

興味は心の中にある好奇心という本能が自然に生み出すもの。何も食べないとお腹がすくように、それはすごく自然な事だ。でも、お菓子ばかり食べていたら、お腹いっぱいになつて必要な栄養を吸収することができなくなってしまうように、浅い情報の暗記ばかりしていたらいつまで経つても好奇心は発動せず、本当の勉強はできなくなってしまう。

だから勉強するときは「本物」を体験しよう。できるだけその道のプロのところへ足を運び、生で見よう、聞こう、触ってみよう（可能な限りね）。そうすることで君の好奇心はワクワクドキドキしてくるはずだ。

勉強は知識の積み重ねによって行われる。でも興味もない情報
報をいくらかき集めていても意味がない。

現場で生の知識を体験しよう！好奇心を使って勉強しよう！

3. 「要素」と「道」

僕は小学生の頃、あまり勉強をさせてもらえなかった。家がそんなにお金持ちではなかったので、ゲームとかマンガとかもそんなに持つていなかった僕は学校の教科書を読むのが好きな「変わった」子だった。

小5の頃、友達がやっていた進研ゼミの通信教材がすごく面白そうで親に自分もやらせてくれと頼んだ。でもウチの親は、

「勉強は学校でするものだ。そんなものは必要ない。」

と言ってやらせてくれなかった。友達は嫌々やらされていたので、

「雄一、お前変わってるな。なんなら俺の代わりにやってくれよ。」

と言って時々問題を解かせてくれた。僕はそれでますます勉強したくなり、小6の時にもう一度、今度は涙ながらに訴えてやっとな勉強させてもらえたんだ。

それ位頼み込んでやらせてもらった勉強だから、徹底的に勉強した。今までよりも遥かにたくさん情報が頭に入ってくる。算数では色々な公式を知り、問題を解きまくった。(この頃学校の計算ドリルを1週間で1年分終わらせてしまった) 国語では一人で勝手に教科書を

読みまくって1月程で全部読み終わってしまった。社会も理科も僕にとつては面白い遊び道具の一つだった。

やがて中学になると、進研ゼミでほぼ学校の予習を終えていた僕は学校の授業が退屈で仕方なかった。先生は授業で僕がもう知っている話を延々としている。他に何か興味を引くような話もない。そのうち僕は色んな本を読んで「先生よりも面白くて分かりやすい」説明ができないだろうかと考えるようになった。そして先生の説明を聞いても全くちんぷんかんぷんになっている隣の女の子に、勉強を教えるようになった。

「これってこうしたらいいんだよ」「先生が言ってるこれってこういうことなんだぞ」

先生になった今から思えばメチャクチャ嫌なヤツだったが、当時の僕は隣の子が「へえそういうことだったんだ」と言うのがすごく快感だった。「意外に勉強って面白いんだね」と言われると自分の事を「好き」って言ってもらってる位に感じていた。学期末の成績表は自分の成績よりも隣の子の成績に一喜一憂していた(笑) こうして「僕の隣に座ると成績が上がる」という伝説が生まれた。僕は自分が知る勉強から、人に伝える勉強へと変わっていったんだ。

人に理解させるのは、自分が理解するよりも何十倍も難しい。覚えた公式を実演して見せて「ほらできるだろ」と説明しても、勉強が分からない人は「何でそうなるのか」が分から

ないから全く理解できない。それなのに「分からないのはお前が頭が悪いからだ」と言ってしまうのは教える側の言い訳だ。それを理解させるには教える自分がもつともつと色んな本を読んで、質問して勉強するしかないんだ。

僕は中学時代、よく職員室に質問に行った。でもそれはテストの点を上げるためじゃなく、隣の子に勉強を教えるためにもつと僕が知りたかったからだ。そんな勉強の仕方、僕は塾に行くこともなく学校の勉強ができる子になった。そして今ははるか歳の離れた自分の生徒達に同じように勉強を教えている。昔と変わらない勉強を教える事を磨き上げて仕事にしてみました。

仕事という「道」はいくつもの「要素」から成り立っている。例えば先生と言う仕事をしていくには勉強を教える事はもちろんだけど、それ以外にも集団行動の決まりや、将来に向けた進路指導、職業観育成のための仕事があり、また、人としての心を育む道徳教育なども求められている。教師と一口に言ってもその仕事は多岐に渡る。勉強が好きでたくさん勉強した人は授業が上手くなる。生徒と一緒に本気で生徒の事を考える訓練をした人は生徒指導が上達する。いろんな社会経験を積んだ人は進路指導が上手くなる。先生と言っても色んな先生がいるように、仕事は色んな要素が組み合わさってできている。そしてどの要素

を使うかは一人一人違うんだ。

僕は最初から先生を目指していたわけではなかった。大学に入ってからアナウンサーを目指して発声や発音の練習や、ニュースを取材してくると言う練習に力を入れていた。その後、アナウンサーの道を断念し、ボクシングのプロテストを受けたり、アルバイトで働いていた塾や家庭教師の仕事で経験を積んだりした。一度は大手のスポーツメーカーに勤めてみたこともあった。そんな経験を経て、僕は通信制高校の先生になったんだ。

最初から教職を目指していた先生とは違って、僕は教育のきの字も分らないような素人だった。でも、それまでに身に付けた「要素」を上手く使いながら、まだ持っていない「要素」を勉強していくことで、一応多くの生徒に先生と呼ばれるようになった。(笑)

僕はテレビ局を目指していたこともあり、授業は面白くなければいけないという発想に基づいている。僕は授業中にたくさん雑談をする。趣味のことや漫画のこと、恋愛話やニュースの話、それは一見くだらない話に見えるんだけど、誰でもわかるくだらない話を教科書の内容に結びつけることでクラスのみんなが理解できる勉強が生まれる。だからその作業が僕の仕事なんだ。

もうひとつ、先生をやる上ですごく生きてきた要素があった。それはボクシングと言う要素だ。

僕は昔ボクシングをしていた。始めたきっかけはすぐくだらないんだけど、当時付き合っていた彼女に、

「痩せなきゃ別れる。」

と言われたからだ（泣）。女のために始めた軟派なボクシングだったけど、始めてみるとその世界は面白く、僕はどんどんはまっていった。体重は1ヶ月で10キロ以上も落ち、腹筋は割れた。彼女はもういいからやめて、と言ったが、やつとスパリングをさせてもらおうようになり本格的にボクシングを勉強し始めた僕は、もはや痩せる為と言う目的はどうでもよかった。

一日20キロ走り、腹筋を200回、縄跳びで二十飛びを100回、毎日苦しい練習を続けた。そのうちプロの選手とスパリング（練習試合のようなもの）をするようになった。もちろん、ボコボコニされた（泣）ガードしないと頭を殴られる。でも頭をガードするとおなかを殴られる。頭にパンチをもらうとボーっとして意識が飛んでいくし、お腹にパンチが入ると苦しくて息ができなくなる。3分間、地獄のような体験を毎日繰り返した。僕はその時何を思ったか。それは、

「いじめって絶対ダメだわ」



ボクシングを経験して、僕は「痛み」を知った。人の痛みを知る事は大事な要素の一つだ。

決して曲げることでできない信念を持った。だからボクシングは僕にとって大事な「要素」の一つだ。そんな先生あんまりいないけどね（笑）

仕事と言う「道」には絶対必要な要素がある。僕が勉強を教えられなければ、先生と言う道は進めなかっただろう。先生を目指すなら最低限「勉強を教える」と言う要素は身

ということだった。僕は体が大きいから、今までいじめられたことはなかったけど、ニュースや友達の噂でいじめられている人がいるのは知っていたし、集団でリンチされたなんて話も聞いたことがあった。でも、自分はやられたことがないから究極のところその痛みは分からなかった。こうやって自分がボコボコにされる経験をして、初めて僕はいじめられた子達の痛みが分かった。

集団で抵抗もできない状態で殴られ、蹴られるのは本当に辛い。僕のボクシングは3分で終わるけど、いつ終わるとも分からない「いじめ」はどんな理由があろうと絶対許せない。僕は自分の生徒には絶対いじめをさせない。もしもケンカをすることがあっても、ちゃんとケンカのルールを守ってしろと教えている。僕はボクシングを経験したことで、先生として

に付けておかなければならない。でもそれだけあればいい先生になれるかと言うと、そんなことはない。生徒の話を聞いて、もっと生徒の期待に応えたアドバイスをしようにと思えば生徒指導の勉強をするし、生徒に病気を抱えた子がいれば自分もその病気の事を調べておくだろう。僕は生徒にいじめや不登校の生徒が多かったから、そういった場合に適切なカウンセリングを行えるように、教育カウンセラーの資格を取ったよ。もしも部活の指導をする事になったら、先生もそのスポーツを勉強しなければならぬ。生徒のために何ができるのか？何をしたら生徒は喜ぶだろうか？というLOVE OTHERSな発想で勉強しなければ、先生という「道」は生まれぬ。

もしも仕事を単に自分のため、お金儲けのためだと思っていたら、絶対仕事をしながら勉強なんてできない。そういう人は言われた最低限の仕事だけしてさっさと家に帰り、時間を自分のために使った方がいいと考えるだろう。そして勉強しないから、どれだけ働いても彼らに要素は増えない。やりたくない仕事をしている人はそんな最小限の要素で生きている。そして要素が少ない人々は、不況や経済恐慌の時には真っ先に仕事を失う。「それ」しか出来ない人はそれを失くしてしまうと生きていけなくなる。君にはそうなるてもらいたくはない。だからやりたいことを勉強し、やりたい仕事をしてもらいたいと僕は言うんだ。

今君が学校で勉強している国語や理科や算数も、君が誰かを好きになったり、友達とケンカしたりしながら学ぶ人間関係も、本を読んで、映画を見て、感動したり笑ったりする事だつて、みんな君の道を作っていく大事な要素になる。その要素は、多ければ多いほど君の道を太くする。だから好奇心のアンテナを張り巡らせて、貪欲に要素を増やしていこう。

でも、数だけあっても内容が浅くてはダメだ。単なる情報の暗記ではどんなにその量が多くても、使えない道具が増えるだけになってしまう。だから一つ一つの要素はちゃんと理解して、自分の言葉で説明できる位に深めなければならぬ。そうすることで君の道は頑丈なものになるんだ。

それはまるでRPG（ロールプレイングゲーム）のようだ。レベルの低いうちはコツコツと経験を重ねて、色んな要素を吸収していく。ゲームで武器を強くしたり呪文を覚えてレベルアップしていくのとおなじだ。そして要素がたまってきたら、目指すべき大きな道へと駒を進めていく。ゲームでは大魔王を倒し世界に平和を取り戻して終わるけど、現実の世界には大魔王はいない（笑）。実際には君が蓄えた要素をフル活用しながら自分の道で仕事をし、お客さんに幸せを感じてもらおう事が目指す道だ。ゲームも人生も、人に喜ばれるためにコツコツとレベルアップを重ねていくんだ。そう考えればRPGは「人を喜ばせる、感謝さ

せる」と言う要素の立派な勉強だ。

このように考えていくと、勉強のコツは日々の体験を「要素」として認識し、「道」のために生かしていくことだと分かるだろう。

せっかく同じ体験をしても、それをちゃんと理解して「要素」にしていく人と、何となく経験して、何にも吸収しない人がいる。勉強ができる人は何をやって、それをちゃんと自分の「教科」だと思つて、ひたむきに理解しようとする。そして練習問題を解いて自分で試してみる。そんな人は勉強ができるようになっていく。ほら、修学旅行に行ってもただ「見た」っただけで、何の勉強にもならないまま帰ってくる人がいるだろ？その一方でちやあんと下調べをして、「現場」を見て勉強してくる人もいる。その違いが勉強のできるできないの違いなんだ。

それはどの要素でも同じだ。サッカーや野球が得意な人は、それが自分の道だと信じ、毎日ひたむきに練習に励むから他の人よりも上手になるんだ。元からの才能なんて、多少の差はあれ、絶対にそれだけでは人の能力は決まらない。頑張つて人が上達する。

人間の一日の時間は24時間、この時間は誰にとつても平等に与えられている。その時間をサッカーの練習に使うか、数学の問題演習に使うか、それは人それぞれだ。どの分野でも

ちゃんとやった分だけ、要素が磨かれる。やり方の問題もあるけど、基本的にはやらないヤツより、やったヤツのほうができるようになる。それが勉強の極意だ。

そしてその要素をできるだけ太く、頑丈にした人が、その道で他人にLOVE OTHERRSを与えることができるようになるんだ。君の要素は今どれだけあるかな？君はちゃんと日々の体験を要素化しているかな？

日々の体験をちゃんと意識して要素化していこう！

一つ一つの要素が君の道を太く頑丈にしていくから。

4. 自由は自由か不自由か？

世の中には無数の仕事が存在する。「あんなこといいな」「できたらいいな」「って人が思

えば、そこに「需要」という仕事の可能性が発生する。そしてその「あんなこといいな。」を叶えてくれる人が「供給」する事によって仕事が達成される。

「安全な街がいいな。」と思えば、警察官や消防士、ガードマンという職業の人達がそれを叶えてくれる。

「早く遠くまで行きたいな。」と思えば、電車やバスやタクシーの運転手、飛行機のパイロット達がそれを叶えてくれる。

「自分じゃ作れないおいしい料理を食べたいな。」と思えば、たくさん料理の修行をした料理人、板前さん、コックさん達がそれを叶えてくれる。

僕は前の項で仕事という「道」を作るにはいくつもの「要素」が必要になる、と言った。仕事が無数にあるということは、それを作る要素は・・・無限にあるってことだ！

勉強の入り口がいくらでもあるっていうのは文字通り「自由」ってことだ。何でも好きにやっつけていいよ！って言われてる。だから僕なんかその自由を満喫して大学を4つも行ってしまった(笑)

でも今の子どもたちの中には「自由にやっつけていいよ」と言われると、困ってしまう子が結構いる。自由が不自由なんだ(泣)それもそのはず、彼らは少子化、核家族化の中で生まれ、

両親や両祖父母からマンツーマンで監視を受ける。昔は5人6人兄弟が当たり前で、大人が兄弟姉妹を全部見ることなんてできないから、子どもたちは自由に動き回って、失敗して痛い思いをして、自分で道を造っていった。親からの躰もビシッとゲンコツ一発で分かるように教えられていた。

しかし今は違う。子供が一人か二人しかいなければ親の目が行き届く。それはいい部分も多々あるのだが、世の中の全てが親の「毒見」(毒が入っているかどうか確かめる事)を経て子どもに回って来るため、子どもは親無しでは生きていけなくなる。その典型的な例が「自由が不自由」な子供たちだ。全てマニュアル通りに進めないと、怖くて何もできない。用意された答えを当てるのは簡単だが、誰も知らない答えを自分で創るのは苦手。僕は自分の授業の中でもそんな生徒達をたくさん見てきた。

彼らは自分で何かを生み出すという快感を知らない。入試問題でも、選択肢から選ぶ問題は得意だが、記述問題で自分の考えや答えを生み出すことは徹底的に嫌う。記号問題は埋めるけど記述問題は全部白紙、最近流行している中学入試のエリート達の現状はそんなものだ。僕は記述問題の白紙解答を許さない。

「どう思うか言ってごらん」「こういう時、お前だったらどうする？どう思う？」

僕は模範解答という「答え」を聞きたいんじゃない。その子の考えや思いを聞きたい。それが勉強すると言う事だと信じている。実際僕が受け持つ生徒は、どんな短期間でも「自分の答え」を出す練習を繰り返すから、まず勉強が好きになる。そして好きになれば得点は取れるようになる。やればやった分だけ伸びると言う話だね。だから成績が上がる。

子ども達は本が大好きだ。自由に色んな本を読み、知識を吸収している。大体の男の子達は恐竜、昆虫、宇宙くらいの話をしてたしなんている（笑）女の子達は花、果物、野菜などの話が大好きだ。せっかく「好き」があるんだからそこから勉強を広げていけばいいのに、大人達はどうしても入試科目という特定の要素に閉じ込めてしまう。それがむしろ子どもの勉強を潰してしまうとも知らずに。

僕はそこに真っ向から対決するために「なかよし学園」を作った。同じ志を持つ吉田さんと2人で、子ども達に本当の勉強をさせよう、勉強を楽しんでもらおう、という想いで学校設立の準備をしている。この「教育論」もそういう意味で書いている。この本は決して読みやす



びっしり書き込まれたノート。考えて「自分の言葉で」書かれたノートは何度でも見直せる「教科書」になる。

いマニユアルではない。ちゃんと読んで理解するための教科書だ。だから僕も真剣に書いている。色んな要素を散りばめながら、読んでいる君が勉強できるように。

子供達は自由になりたくてうずいている。本当は思いっきり好奇心を暴れさせて、色んなものを吸収していきたくて止められてフラストレーション（イライラ）がたまっている。

だからゲームの世界で暴れまわる。最近段々ゲームが過激で、残虐になってきているのはそういう影響があるのではないか。そしてゲームと現実の区別がつかなくなった、というよりはむしろ、ゲームだけじゃ治まらなくなったイライラが、いじめと言う形でリアルになる。

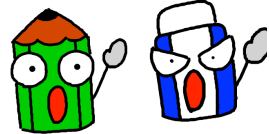
それがエスカレートして犯罪という形で現れてしまっている。さもなくば生きる事に絶望して命を絶ってしまう子供もいる。子供達は「別にない」「特にない」を繰り返す。そして何かをやろうとすると「めんどくさい」が真っ先に出る。僕はそこに強い危機感を感じる。

せめて僕と出会った人には本当の勉強を教えよう。一人でも多くの人に自由の翼を与えよう。そう思っている僕は今、活動が続いている。

まず君に、最初の一步を教えよう。君が自由に勉強できるように、もっともっと勉強を楽しめるように。それはすごく簡単な事だ。

これからは分からない事を「分からない」と言おう。

わかりません！



全てはそこから始まる。もう分かっていたフリなんてしないでいい。分からない事は親にでも先生にでも質問しまくれ。大人がその質問から逃げれば「自分も分からない事を人にやれって言うなよ」と言つてやれ。「覚えるだけでいい」「後で役立つ」なんていう言葉に騙されるな。勉強しろというからには大人にはその疑問に答える責任があるんだ。その責任を果たさない大人は勉強しろという資格はない。少なくとも僕は君の質問から逃げない。もし答が分からなければ一緒に答えを探そう。

でも、誰も教えてくれないからといって、君がその質問から逃げてはいけない。周りに答えてくれる人がいなかったら、どこでもいいから答えてくれる人を探すんだ。それは人でも本でもパソコンでもいい。今の人でも昔の人でも、君より年下の子どもでもいい。答えを「探す」のは君自身の勉強だ。「めんどくさい」と言っていたら君も適当な大人と一緒に頑張ってまう。

情報ツールが発達した今の時代、世界中の色んなところに君の質問に答えてくれる先生がいるはずだ。学校でも図書館でもインターネットの世界でも、そういう先生達と本当の勉強

をしていこう。

勉強は学校でもいい。学校じゃなくてもいい。国語や算数でもいい。まだ誰も考えた事もないような科目でもいい。頭の中であれこれ考える勉強でもいい。実際に現場を訪れて体で感じる勉強でもいい。勉強にルールなんてない。「本質を知る」、分からない事を知るという目的があるだけだ。君はいくらでも羽ばたける。自由に勉強を広げていけるんだ。僕も今までそうしてきたし、自分の生徒にも自由に勉強してもらいたい。それが僕の考える教育論だ。

自由を不自由と感じるな！誰かのマニュアルに踊らされるな。

自由を楽しもう！新しいものをどんどん生み出そう。

そのためにまず、分からないものは「分からない」と言おう！

5・学校は勉強の玉手箱

僕は学校が好きだった。学校と言っても授業だけを言っているわけじゃないよ。授業中も、休み時間も、給食も掃除も、登下校の時も、学校生活はワクワクドキドキと楽しさの連続で、僕はその時期を思いっきり楽しんだ。笑ったり泣いたり、楽しいことがあったり、嫌なことがあったり、色んな経験をして僕は成長した。自分も子どもの時にたくさん色んな事を経験したから、今、その経験を生かして教育を行うことができるんだ。

今の日本の法律(学校教育法という)では7歳になる年から15歳になる年までは小学校、中学校に通わなければいけないと定められている。義務教育っていうやつだね。子どもたちを学校に行かせるために、親はもちろん日本中の人が税金を出してそれを支援している。(日本国憲法の第26条に、子女に普通教育を受けさせる義務が明記されている。)

なぜ各家庭ではなく、「学校」と言う場所で勉強をさせるのか。単に教科の学習をさせるだけならば家で本や家庭教師を使いながら勉強してもできるはずだ。なぜ学校と言う場所が必要なんだろう。

それは学校が様々な勉強の要素を持つからだと僕は考える。

学校には勉強の要素がいっぱいだ。登下校から、授業中、休み時間、放課後まで、学校に行っている間に学べる事は計り知れない。

朝起きて学校へ通う。登校中の道には自然がいっぱいだ。春は大通りに桜が咲き乱れ、桜が咲いた後は黒っぽいサクランボの実ができるから、僕はそれを食べまくった。小さな実は酸っぱくて美味しくはないんだけど、歯が濃い紫色に染まって面白い。学校に着くと歯が黒ずんでいる子があっちにもこっちにも。「お前もかあ(笑)」って言って学校が始まる。

他にもツツジの花の蜜をチョウチョと競って飲みまくったり、犬のウンコを見つけては棒に刺して学校に持って行ったり。そんなこんなしながら学校へ向かっていた。

冬になると犬のウンコは真っ白になるんだ。僕はそれがずっと不思議だった。でも、高校生の時、生物や化学の授業で習った知識でその不思議は解決した。ウンコは体内から排泄されるから温度を持っている。つまりあったかいんだ。で、そのホカホカのウンコが冬には急速に冷やされる。それで水分がフリーズドライされて霜が降りて真っ白くなっていたんだ。

ウンコ一つも大事な勉強の要素になるんだぞ。恐るべし、ウンコ(笑)

学校に着くと、子どもの世界が始まる。学校は子どもにとって家とは違う「社会」と言う

場所だ。大人の社会に法律や一般常識と言うルールがあるように、子どもの世界にも子どもたちのルールがある。

子どもの世界では、何か人より得意なものがあると、一目置かれると言うルールがある。勉強ができなくても体育ができる子はカッコイイ。抜群にサッカーが上手い子は

「俺は将来プロサッカー選手になる」

と堂々と言い、周りもそれを信じている。だから勉強ができなくても一目置かれている。

学校と言う場所では、みんなで色んな科目を勉強する。本が好きな人もキラいな人も国語を勉強するし、歌が上手い人も下手な人も音楽を勉強する。だからそれぞれの科目でヒーローやヒロインが生まれるんだ。授業中はみんながそれぞれの個性を持って、自分の得意な分野で勝負している。算数が得意な子は「ハイハイ！」と元気に手を上げるし（国語の時は寝ているくせに）、体育の時だけ元気ハツラツでリーダーシップを発揮するヤツもいる。ピアノ教室に通っていて、合唱コンクールや卒業式の時の伴奏でヒロインになる女の子がいたり、読書感想文で金賞を取って「アイツすげえなあ」と金賞の威光に輝く子もいる。学校とは、子ども達が一番自然に「生き方」を勉強でき、「好き」を披露して、正しくみんなに評価してもらえするという最高の場所なんだ。

大人になったらそうはいかない。大人は得意分野一本で勝負するから、「みんなで色んな事」はやらなくなる。だから自分に「必要ない」ものは排除していく。でもそれは僕が役割分担で説明したように、お互いを尊重し合って自分にできない事を人に任しているからこそできる事なんだ。小学生や中学生が「俺にはその科目は関係ないし」というのとは全然違う。学生はまだ何の道で生きていくかすらも解っていない。それなのに必要な科目を勝手に絞り込んで勉強しては偏った人間が出来上がってしまうだけだ。

それに、純粹な心をもっているうちに他人の得意な事に「すげえ」と感心する習慣をつけていないと、大人になっても画一的な見方しか出来なくなってしまうんだ。偏差値でしか人を量れない学生が、年収や役職でしか人を判断できない大人になる。そうさせないために学校が必要なんだ。

小学校の頃、僕の周りには個性的な仲間がたくさんいた。

漫画が好きで、小学生にして漫画を描いては投稿するナベさん。

サッカーが大好きで、プロリーグのジュニアユースに入って小学生の僕らをプレーで魅了するリキとシンちゃん。

クイズ大好き、給食時間をクイズ番組に変えてしまうヨシくん。
歌がメチャクチャ上手かった合唱部のシノハラ。

まんまるほっぺで、みんなからほっぺをつんつんされるひぐち
やん。

アイツは運動が得意だった。あの子は歌が上手かった。そんな理由で僕らは友達を尊重できた。苦手なものは誰にでもある。でも子どもは苦手なものを批判するより、得意なものを「すごいな

あ」と感心する方が得意だ。その感覚を磨くだけでも学校に行く価値がある。もしも大人になつて、人を見下すことしか出来なくなつたり、一つの見方しか出来なくなつてしまつたら、そんな人はむしろ子どもに勉強を教えてもらった方がよい。

学校には色んなヤツがいる。その色んなヤツを集めるのが学校であり、色んなヤツに色々な事を体験させ、興味を持たせ、道を見つけさせる、それが学校教育の目的だと僕は考える。

また、学校では生徒が勉強すべき「教科」の他にも、特技を発揮できる場が用意されている。小学校や中学校のクラスには「面白い」と言う理由で一目置かれる子もいる。授業中に



学校は色々な価値をもった「人」が集まる場だ。色々な価値をぶつけ合いながら、みんな大人になる。

先生の質問にボケで返したり、給食時に友達を笑わせたりするヤツがいる。

僕が小学校の頃、こんなヤツがいた。

「固い餅（かたいもち）の反対は何でしょう？東野君。」

「ちもいたか」

（オイオイ東野、その反対ちゃうで（笑）ひらがな逆から読んでどないすんねん！）

退屈な授業中、そんなツツコミを僕らは心の中で入れつつクスクス笑う。

彼は差別についてのまじめな話に僕達が少し眠さを覚え始めている時、こんな事を言った。

「僕は差別は嫌いですが、キャベツは好きです。」

（差別とキャベツをかけたんかい！この真剣なムードでそれ言うか？まじアホやこいつ！）

給食中に鼻からスパゲティ出して笑わせたり、悪さをして先生に怒られてる時にはくっさい屁をこいて僕らを助けたり、彼は面白さと言う特技でみんなに一目置かれる存在だった。

学校には大人の価値観では理解できないルールがたくさんある。僕らには僕らの善悪の基準があった。僕らはしょっちゅう先生に怒られた。いたずらをしては先生にぶっ飛ばされた。

それでも僕らは元気だった。半ベソかきながら、

「今日の先生のビンタ痛かったよなあ、あれお前泣いてねえ？」

「泣いてねえよ、あくびしたんだよ。」

「いや、あくびって・・・。眠くないだろ！アハハ。」

なんて言い合い、笑っていた。そして懲りずに何度もいたずらをして怒られてを繰り返していた。

でも、たとえ先生に怒られなくても、いけないことはいけなかった。意地悪するヤツはみんなから嫌われたし、物やお菓子を配って人気を得るヤツは「一発屋」のように消えていった。誰かが決めたルールに従うのではなく、それぞれの気持ちを大事にして、いいモノはいい、悪いモノは悪い、はっきり言う。そうやって子ども達は自分達の世界を造っていくんだ。僕らは学校生活の中で思いやりや優しさを学び、正しい事といけない事を知る。それは決して家にいたんじゃない大事な勉強だ。

大人になると「仕事」以外の価値観が重視されなくなってしまふ。誰もが仕事に一生懸命になり、家族や育児、地域活動といったお金にならない仕事には目もくれなくなってしまう。でもそんな人は家庭が崩壊したり、友達を無くしたり、近所で孤立したり、一人ぼっちになつてしまふ。そうならないように、学校では授業だけでない、生活や友達、恋愛といった、人が生きていく上で重要なもう一つの要素を学ぶんだ。人付き合い、LOVE OTHER

Sといった要素を。

子どもの世界の価値観は無限にある。僕が小学生の頃はまだ中学受験をする子がクラスに一人いるかないかの頃だった。子どもの「すげえ」や「かっこいい!」を無理矢理一つに絞る必要がないから、子ども達は色々な要素を見つけては磨いていった。

塾へ行ってる子は勉強ができてすごい。だけどそれが全てではない。サッカースクール、野球教室に行ってる子もいる。その分野ではみんなにすごいと言われる。でもそれが全てではない。スポーツだって美術だって家庭科だって、頑張ってるヤツはみんなカッコよかった。僕が育った子どもの頃はそんな時代だった。

しかし、いつの間にか子ども世界の価値観は絞られていった。受験で難しい学校に入る事が一番の価値観になり、そのための偏差値と言う基準で人を量るようになってしまった。受験に必要な科目が得意な子がいても、「別にそれができなくても生きていけるし」と子ども達は他人を評価しなくなった。受験と言う価値観が絶対的になり、その他の価値観を排除してしまったんだ。

今の日本では大人も子どもも仕事に追われ、人に対して思いやりや愛情を向ける事をしなくなっている。みんな自分の成績にしか興味が無い。成績を上げる事に一生懸命だ。そして

それだけ仕事に時間を割いているにもかかわらず、自分の得意を生かすなんて事はこれっぽっちも考えていない。やりたくなくても他人より評価されるなら、と我慢して情報を溜め込んでいる。その結果、日本は経済も政治も教育も、なんか歯車がかみ合わない、嫌なムードになってしまっている。

それでも僕は自分の生徒達を見ていて、パイロットを目指して飛行機にめっちゃ詳しい子がいたり、ドラえもんを発明するためにメチャクチャ理科が好きな子がいたり（彼は家で顕微鏡を見たり、望遠鏡をのぞいたりして実験を繰り返していた、絵が好きで自作の漫画を教室で披露している子がいたりするのを確認すれば、ちよつとは安心できるんだ。

でもその反面、ニュースや新聞でお受験だけに翻弄される子供達を見ていると背筋が凍ってしまふ。大人が付きつきりで子供に寄り添い、大人の世界の知識を叩き込む。暗記ばかりでそれを体験したことがない子どもは、全てを頭の中だけで考えようとするから苦しい。脳が「もう覚えられないよ」と悲鳴を上げている。それでも覚えないと怒られるから必死に暗記する。自分で考えようとはしない。答を覚えようとして暗記マシンが出来上がってしまう。そんな子達はやがて知識を与えてくれる大人無しでは勉強できなくなる。自分では勉強出来ないんだ。そんな子がどうやってその先生きていくか。僕は教育者として見過ご

することはできない。自分の生徒だけでもそうさせまいと活動してきた。でも、現実にはそういう子どもが増えている。

何度も言うけど、学校は社会に必要な要素を可能な限り集めている。国語や算数、理科社会に英語といった定番の科目から、図工や家庭科、体育に道徳、音楽書道まで色んな科目があつて、それぞれに得意な子がいる。すごいツワモノがいる。(笑)さらに給食や掃除の時間は友達付き合いや恋愛を勉強する絶好のチャンスで、人付き合いやLOVE O T H E R S を学ぶ場となる。

僕は知識を学び、仲間と遊び、友情を高め合い、恋をして、笑ったり泣いたりしながら、少しずつ大人になっていく。子どもの世界での「何でもできる、やってみよう!」というルールを修正して「自分の得意な事で勝負していこう!」という大人のルールに変えていく。みんながアマチュアの「何でもできる」が、少しずつプロフェッショナルになり、「本当に好きなもの得意なもので、勝負をする」に変わっていくんだ。だから人は子どもの時も大人になつても熱く生きていけるんだ。それを忘れてしまった今の教育に、僕はもう一度その熱い魂を吹き込みたい。

学校には子ども達がヒーローになれる入り口がたくさんあるんだ。色んな科目と、様々な

活動を通してみんなが「自分にもできることがある」と自信を持ち、小さな要素を一つ一つ積み上げながら、将来歩むべき道を探していくんだ。道は決して一つじゃない。それぞれが違う道を進むからお互いに尊敬し合えるし、協力も出来る。それに色んなヤツがいたほうが面白いじゃん。それなのに受験と言う一つの道に無理矢理合わせてしまうから、それが得意な子だけが自信を持ち、勉強が苦手な子達はせっかく他の得意分野があるのに自信を無くしてしまうんだ(泣)

子ども達はそれぞれ好きな入り口から入って、それぞれの要素を積み上げていけばいい。それはやがて学問と言う道になり、さらに磨きをかける事で仕事という道ができる。そして LOVE OTHERSな要素と合わさって人生と言う大きな道になっていく。

今の子どもは最初から「道」を目指し、やたらとそのノウハウ(方法)を入れ、賢く生きようとする。でも「学問に王道無し」というように、最初の入り口を通らないで「道」は生まれえない。楽しんで身につけた方法は、好奇心を伴った経験には絶対に敵わない。

だから学校では「バリアフリー」に勉強しよう。好きなものを学べ。苦手なものには好きな子に何が面白いのか聞いてみよう。そうやって色々な要素を積み上げていく事が学校で君が勉強すべき事なんだ。

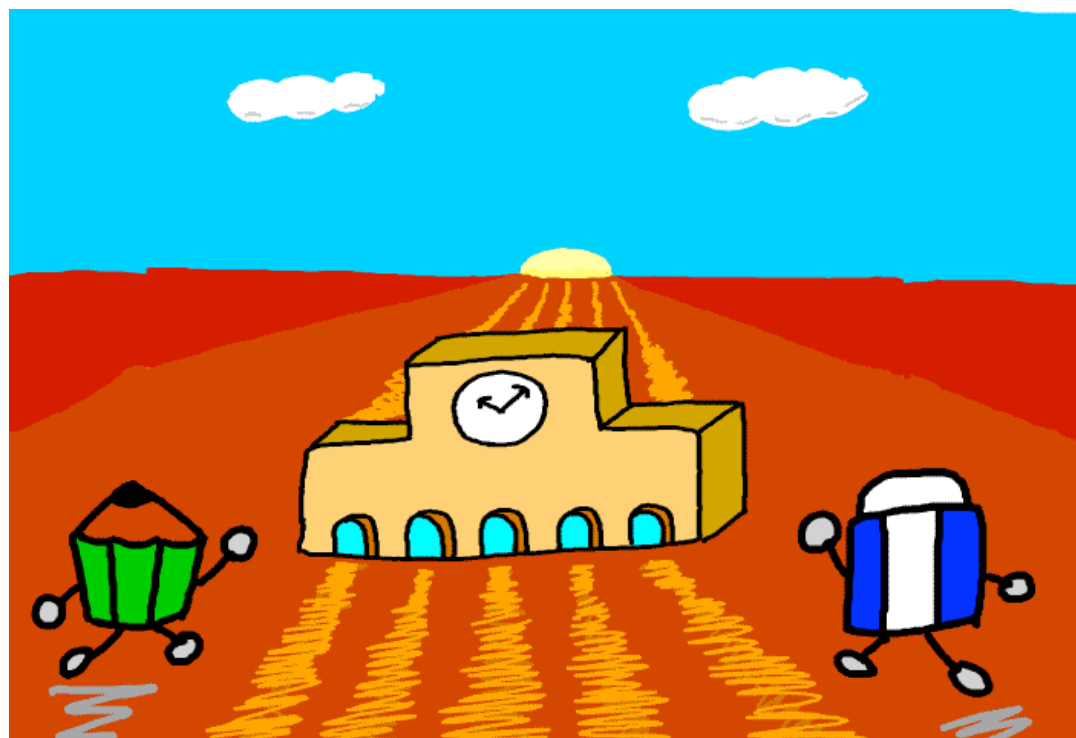
学校は勉強の玉手箱だ。色んな要素の中から好きな勉強を始めよう！

自分の得意を見つけて友達に認めてもらおう、他人の得意を

「すげえ」って感心して認める、それが学校だ。

授業も友達も恋愛も、色んな要素が詰まった玉手箱を開けよ

う。学校で学べ！



学校にはいくつもの道がある。
学校の外にも道がある。
ちゃんと入り口から入って道を歩めば、
君の「道」は太く長く続いていく。

6. 学校の勉強のやり方

学校での勉強がどれだけ意味を持っているかが解ったら、次は学校での勉強のやり方を教えよう。たくさん要素の詰まった学校での勉強を、どうやったら面白く勉強できるか。

僕は勉強が好きだったからあまり考えた事はなかったが、友達や自分の生徒達があまりにも勉強、特に国語や算数などの教科が嫌いだったので、その違いを研究してみた。

するとどうも他の人の勉強のやり方と僕の勉強のやり方は違っているらしいという事を発見した。多くの人は

①勉強はやらなければならない義務的なもの ←

②先生にやりなさいと言われた所を覚えようとする ←

③意味がよくわからない ←

④無理矢理暗記するから疲れる

←

⑤テストで点数が取れず落ち込む

←

⑥勉強が苦手と感じ、やる気がなくなる

←

⑦勉強が嫌いになる

と、こんなプロセス（過程）を経て勉強が嫌いになっている。じゃあ僕の場合はどうだったのか。僕は

①勉強は好きでやるもの、知らない事や知りたい事を知るためのもの

←

②本を読んだり授業を聞いて解らない所を解ろうとする

←

③意味がわかる

←

④理解していく中で用語や説明は自然に覚えてしまう

←

⑤テストでは解っている事を聞かれるので点数も取れる

←

⑥勉強が得意と感じ、もっと色んな事を知ろうとする

←

⑦勉強が好きになる

とこんな感じだ。違いがわかったかな？

実際、僕が今、先生として生徒達に教えているのは③の「意味がよくわからない」を潰す所から始まるんだ。学校や塾で①「義務的にやらされて」、②「言われた所を覚えようとした」生徒がどんどん勉強が嫌いになっていく中で僕と出会う。僕がその子に同じように勉強を強制し、無理矢理覚えさせようとすればきつと結果は変わらない。勉強が嫌いになってしまう。

①勉強はやらなければならない義務的なもの



②先生にやりなさいと言われた所を覚えようとする



③意味がよくわからない



④無理矢理暗記するから疲れる



⑤テストで点数が取れず落ち込む

⑥勉強が苦手と感じ、やる気がなくなる



⑦勉強が嫌いになる



こっちはダ"Xな
やり方だ"な

① 勉強は好きでやるもの、
知らない事や知りたい事を知るためのもの



② 本を読んだり授業を聞いて
解らない所を解ろうとする



③意味がわかる



④理解していく中で用語や説明は自然に覚えてしまう



⑤テストでは解っている事を聞かれるので点数も取れる



⑥勉強が得意と感じ、もっと色々な事を知ろうとする



⑦勉強が好きになる

こちらのやり方が
いいね



だから僕は点数を上げようとするのではなく、勉強を面白くさせようとして授業をする。でも、面白く、とは言っても勉強は勉強、つまらない人にとってはそう簡単に面白くはならないだろう。どうやったら勉強が面白くなるか。

その一つの答えは「本質を知る」事なんだ。例えば①や②の段階で僕と同じようにその科目が好きで、自分の好奇心によってどんどん知ろうとしている人は「覚えなさい」と言われるからではなく、自分自身で必要性を感じるから勉強する。自分がその要素を吸収しようと言うときに必要なものは自分から掴み取っていく。でも、興味が無い、好きではない人は自分からは知ろうとはしない。そこに大きな差が生まれる。

じゃあその必要性を授業の中で与える事はできないかと考えた。

僕は勉強が好きで大学に4回も行った。そして法律や経済や政治、教育学や英文学を学んできた。そこで学ぶ知識は「本質」だった。大学では社会の物事の本当の意味を勉強する事ができた。それはどんな遊びよりも楽しかった。これを知るために今までの勉強があったんだとよく分かった。

そんな僕が先生を始めて、思ったのは生徒達に「今の勉強からゴールまでを先に見せてあ

「げたらどうだろう？」と言う事だった。生徒が今勉強している事は大学でどんな学問になつて、仕事としてどんな風に利用され、身の回りのどんな事に役立つているのか、それをちゃんと教えてあげようと思つた。

そうすれば少しは①や②の所で勉強する意味や、知りたいという好奇心を刺激できるんじゃないかと考えたわけだ。だから僕は生徒にまず、将来の夢を尋ねる。

「お前の夢は何だ？ 将来どんな事がしたい？」

宇宙飛行士、プロ野球選手、パイロット、ミュージシャン、医者に科学者、どんな夢でも僕は笑つたりはしない。それどころか全力でそれが叶う道を探そうとする。夢は見るもんじやない、叶えるものだ。そのために今できる事を先生として教えてあげる。今の勉強と将来の夢を一つの道で結んであげるんだ。そうする事でやる気は倍増する。

もしも夢がまだ無いと言うなら、今好きな科目、または今興味があることを聞いてみる。

例えば美術が好きなき子がいる。美術を究めていけば、芸術家になると言う道は簡単に想像できるが、それだけじゃないんだ。この世の中のあらゆるものは美術的に「デザイン」されている。スポーツカーのカッコイイボディも、近代的なビルも、君の家だって設計士と言う人のデザインによるものだ。何かの形を生み出すという仕事は芸術家だけではなく色々あるん

だよって事を教えてあげる。そしてそれには美術で絵を描くだけではなくて、数学的な思考で安全性や風の抵抗など様々な要因を計算に入れなければならぬ事を教えてあげるんだ。

つまり、夢が見えている人にはその夢に必要な要素を。夢がまだ見えない人には粹なものからの要素集めを。その道標になってあげようというのが僕が先生としてやっている事なんだ。

それと合わせて生徒に「本質」を教えるために、僕は大学で学んだ知識を噛み砕いて噛み砕いて教えた。僕が実践してきたのは「大学レベルの知識を小学生にもわかる教え方で」という授業だ。これは覚えておけばいい、と言ってはいけない。僕はそう言ってきた。でも確かに勉強と言う道のゴールを知ってる人からすれば、今はまだこの知識は早いから、とりあえず覚えておけばいいよ、って言いたい気持ちもすぐ分かるんだ。説明しようとするば時間も労力もかかるから。でも僕は先生としてそこに妥協しなくなかった。

生徒が勉強ができないのは半分は生徒のせい。習った事を復習しないのは生徒が悪い。でも、もう半分は生徒にちゃんと理解させることができる先生のせいだと僕はいつも言っている。だから僕は生徒に言う。

「俺も本気であなたが分かったと言うまで簡単に噛み砕いて教えるから、お前も分からない事

は分からないと言え。そこで一旦分かったら絶対復習して忘れないようにするんだぞ。俺とお前が両方頑張れば絶対勉強はわかるから。一緒に頑張ろうぜ。」

こうして①から③までの所が変われば大体その子は勉強が好きになる。負の螺旋が良い循環へと変わっていくんだ。もちろん細かく見ると科目ごとにその手法や勉強法は異なる。でも僕が色々な教科を教えていて思う大きな勉強法はこの2つだった。

まずは、

・「夢」と「今の勉強」とを結ぶ

・好きなものから要素を集める

という、今勉強しているものへの意味づけ。

そして、

・勉強していく中で生まれる「分からない」を徹底的に理解する

という「本質」の学習。

この2つをぜひ実践してみよう。本質を知るためには、自分で分からない所を見つけたら、本でもインターネットでも先生に聞くでもいいから調べまくって、理解する事。よくわかんない、という状態を徹底的に潰すんだ。その答をもっている人はそんなに多くないかもしれない

ない。僕の頃はそうだった。高校時代数学が苦手だった僕は、友達に聞いても先生に聞いてもピンと来ず、

「そういう意味とか考えているから数学が出来ないんだよ」

と言われていた。そして数学とは関わらない生き方を選んだんだけど、高校を卒業してから10年後、理系の勉強をし直す事になって読んだ本は「目から鱗」だった。その本にはちゃんと僕が知りたかった「意味」が載っていた。丁寧に、僕でも分かるように。僕はその本から勉強を始め、今では数学を教えられるようにさえなった。僕が「本質」を知るまで10年かかった（泣）もしかしたら君の今の質問も、そういうものかもしれない。でも、やるんだ。本質を知らない限り勉強は役には立たない。僕は自分がしたような本質のない勉強はさせないつもりだから。君の周りに本質を知る人が誰もいなかったら、僕と一緒に勉強しよう。

そしてもう一つ、意味づけに関しては、君が目指す仕事をしている人に「君と同じ年の頃どんな勉強をしていたか、どんな勉強をしておけば良かったと後悔しているか」を聞いてみよう。いつか君がその人と同じように仕事をして、誰かに感謝される事を夢見るならば、正に今それを実現している人に昔の体験を聞くのはとても意義のあることだ。その人もきっと今の君と同じように、学校の科目を勉強していた。同じように苦しんだ事もあっただろう。

でもそんな学校生活で得た要素を素に、今の仕事へと道を切り開いた。その経験を聞こう。そして君も、今学んでいる事を自分の道へとつなげるんだ。

この2つを始めてみるだけで少しは勉強に変化が生まれるだろう。意味づけと徹底した本質の理解、こうしてこの「教育論」を読んでいるのも一つの「意味づけ」だったりする。そして僕は授業では徹底して本質を教える。人は意味が分かかって、内容が分かればそう簡単にクライアントにはならない。逆に意味も分からず、内容もわからなければクライアントになるに決まっている(笑) そういうものだ。それを実現するために僕はいつか学校を作りたいとさえ思っている。なかよし学園をいつか本当の教育が出来る場にしていきたいんだ。

**学校の授業で勉強するために、徹底した内容の理解(本質)と、
学ぶべき勉強がどのような意味を持っているのかを知る事
(意味づけ)を実践していこう！**

7. 学校でのLOVE OTHERSの学び方

もう一つ、学校での勉強で忘れてはいけない要素がある。それが人間関係だ。どんなに勉強ができて、友達が一人もいない人は羨ましくない。異性にモテず、恋をしたこともないで終わる人生なんて僕は嫌だ。

将来君が社長になってたくさんのお金を稼ぎ、欲しい物を全て手に入れたとしても、君の周りに愛する家族や、信頼できる友達がいなければ僕は全然羨ましいとは思わないだろう。それどころか寂しい人だとさえ思ってしまう。実際世の中にはお金のために人を騙したり、自分可愛さに人を傷つけたりする事件がいくつも起こっている。きっとその人たちは人を愛する事や、人に愛される事を学ばずに生きてきたのだろう。(色んな事件があるので全てがそうとは言わないが) 人生においては働いて仕事をするのと同じ位、「人と一緒に生きていく」ということは重要になってくる。

その人付き合いの基本を勉強する場が「学校」だ。僕は小学校一年生の時、隣の子と手をつないで入学式の会場に入って行ったのを覚えている。給食は班ごとに机をくっつけて、お互いの顔を見ながら食べた。運動会や文化祭では、それが得意な子も不得意な子も、足りな

い部分を補いながら協力して取り組んだ。

学校ではクラスを中心に生活する。授業を受ける、食事をする、掃除をする、移動する、全てクラス単位で行われる。だから必然友達と同じクラスの子に多くなる。恋をして好きになる子も同じクラスの場合が多い。逆にいじめが行われたりする場もクラスの場合がほとんどだ。学校生活において「クラス」というのはまさに社会の縮図のようなもの、そこで子ども達は人間関係を学んでいくんだ。

クラスには色んなヤツがいる。足が速いヤツ、歌が上手いヤツ、ピアノが弾けるヤツ、勉強が出来るヤツ、面白いヤツ、金持ちのヤツ、貧乏なヤツ、可愛いヤツ、ブサイクなヤツ、太ってるヤツ、痩せてるヤツ……。誰一人おんなじ人間はいない。

クラスは例えて言うならば「会社」のようなものだと思ふ。クラスメイトが褒められればなんか気分がいい。自分のクラスの悪口を言われれば、別に自分の事を言われているわけではなくとも嫌な気持ちになる。合唱コンクールなどのクラス対抗行事で優勝すれば、クラスメイトと最高の気分を味わえるし、卒業した後集まる同窓会もクラス単位で行われることが多い。

色んなヤツがいるクラスで、色んなイベントに取り組んでいく。それが学校という場だ。

運動会では運動が出来る子供がリーダーシップを取り、苦手な子を助ける。家庭科の裁縫では男子の成績を助けるために女の子が人の分まで手伝って縫い物をする。中間期末テストではクラス平均を上げるために出来る子ができない子を教え、生徒会選挙でクラスから立候補者が出れば、一丸となって応援する。クラスの誰もが仲間でクラスの誰もがライバル、切磋琢磨しながらクラスとしての目標に向かっていくところはまるで会社のようにだ。

大人だって、会社の同僚とお酒を飲みにいたり、会社の慰安旅行を楽しんだり、社内恋愛もするし、ケンカもする。利益を上げる、といった目的のために社員が協力して取り組んでいるんだ。

だから将来、組織の中で仕事をしていくためにも、今は学校生活の中でお互いの尊重、つまりLOVE OTHERSを学ぶ必要があるんだ。そのやり方は一つ。ものすごく簡単な事だ。

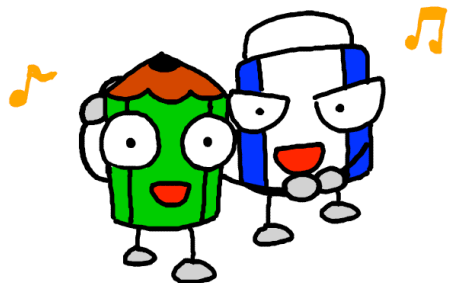
相手の気持ちになって考える

たったそれだけ。相手に何かをする時は「もし自分だったらこうされたらどう思うだろう」

って考えてみる。自分がされて嫌な事はしない。自分がされてうれしい事を相手にもしてあげる。なんか幼稚園で習ったような事だけど、これが人付き合いの基本中の基本だ。

僕が中学生の頃、2泊3日の林間学校に行った。山登りや飯盒炊飯でカレーを作るなどイベント盛りだくさんの課外授業だったが、その中でも一番の目玉イベントがキャンプファイヤーだった。やぐらにつけた火を中心に僕らはオクラホマミキサーに合わせてフォークダンスを踊るんだ。内側に女子、外側に男子が円を作り、音楽に合わせて手をつないで踊る。そして一人と大体30秒くらい踊ったら次の人と交代する。こうして1時間くらいの間学年全員の異性と手をつないで踊っていくんだけど、そこで事件が起こった。

林間に行く前、僕らは体育館で何度もダンスの練習をしたんだ。でもその時、男の子達は恥ずかしがって女の子の手を握らなかった。指だけ触れてつないだフリをしていた。そしてもっとひどい事に、何人かの女の子には「アイツと手をつないだらバイキンがうつる」と言っていてそれすらもしなかった。そんな練習を繰り返して（何のための練習だか分からなかった



けど)、僕らは当日を迎えた。

林間学校の二日目、キャンプファイヤーが行われた。中央のやぐらに火が付き、音楽が流れ、ダンスの時間が始まった。練習どおり(?) 男子達は女の子の指を軽く触りながら踊っている。そしてみんなに避けられている女の子は誰とも手を触れてすらいない。

僕は女の子の手を普通に握った。そんなとこで変に意識する方が恥ずかしいし、それを自分がされた時の気持ちを考えれば僕にはそれは出来なかった。やがて、みんなに避けられている女の子と僕が踊る番が回ってきた。その子はもう慣れてしまったのか、自分から手を出そうとはしなかった。

その時僕はその子の手を思いつき強く握ったんだ。その子は最初驚いたようだったけど、次第に顔は笑顔になった。そして30秒間が経ち短いダンスは終わった。次の人との順番が来る時、その子は「ありがとう」と一言つぶやいた。

こんな普通の事でもいい。僕はそれだけで「中村君は優しい人」と言うイメージが女の子の中間で広まり、その年のバレンタインデーにももらったチョコは史上最高の32個を数えた(笑)中学生だから恥ずかしいのは仕方がない。照れくさい気持ちも分かる。でもそんな理由で人を傷つけることは許されない。手ぐらい握ってやれよ。大人になったら握りたくても握れない

いんだぞ (泣)

相手が嫌がることをしない。そこからLOVE OTHERSは始まる。学校生活には友達や恋人と言う密に付き合う仲間もいれば、クラスメイトや部活の先輩後輩という一種の共同体の人間 (同僚とも言える) もいる。また、他のクラスや違う学年の人、教職員や来校する父兄や他校の人という一般の人とも付き合いが生まれる。誰とどんな形で会うか分からない。でも誰に出会っても「ちゃんと」付き合っていけるように、君の愛情を注げるように練習しておくんだ。

深い付き合いとはお互いを理解し合い、切磋琢磨しながら幸せを共有する事だ。君は友達のををどれだけ理解しているか？クラスメイトのををどれだけ分かってるか？君がいる集団に目指すべき目標があるか？熱く生きるための目標は見えているか？

文化祭や体育祭などの数々のイベント、日々の授業、将来の進路選択、君と同じ境遇に置かれた生徒達が集まるのが学校と言う場所だ。それぞれ進むべき道は違えど、みんなが目標を持って勉強し、切磋琢磨している。そして行事に向かっては、みんなが協力し、一丸となって乗り越えていく。そういう経験をしながら君たちは「仲間」になっていく。所属する共同体で仲間を作り、協力する事を学ぶ。それが学校でLOVE OTHERSを学ぶ事、人

としての行き方を学ぶという事なんだ。

**学校でLOVE OTHERSを学ぼう！相手の立場になって
考え、相手の気持ちを考えて行動する。それだけでいい。そこ
から愛情の伝え方を練習しよう！**

8. 科目別勉強法

学校には色々な勉強の要素がある。それはまるで玉手箱のようだと言う話をした。確かに学校には、行事や旅行、部活の大会など楽しいイベントは盛りだくさんだ。大人になって学生時代の思い出を語る時、多くの人はそういったイベントの思い出を語る。

でも考えてみてほしい。長い学校生活の中で最も多くの時間を費やしたのは体育祭や文化祭の準備でも、部活動でもない。日々の授業だ。毎日毎日学校に行く最大の目的は「授業を受けに行く事」だったはず。それなのに授業の思い出が話題に出ないとはどういうことなんだろう。

僕自身も授業中あんな面白い事があった、とかアイツが怒られたとかいうハプニングがなければ、あまりどういいう授業を受けたかと言う記憶は浮かんでこない。あの先生のあの授業が面白かった、本当はそんな記憶があってもよいはずだが。

そんな中で覚えている授業もある。大学受験のための日本史の授業中、先生が授業時間を2時間もオーバーし、熱く日本の近現代史を語ってくれた。僕は食い入るように先生の話のめりこんで、あつという間に時間が経つたのを覚えている。また、大学の広告関係論という授業では、生徒達が毎週毎週プレゼンテーション(自分達の研究をみんなに発表すること)を行った。ペプシコーラとコカコーラの広告戦略について、資生堂とカネボウの広告の違いについてなど、毎週学生が独自の視点で研究を発表し、最後に先生が総括すると言う授業だったんだけど、僕はその発表を大体覚えてるし、自分は「弁護士事務所の広告活動」(1955年以降自主規制され広告はなかったが、2000年以降規制緩和されてきた)という題

で発表したのを覚えている。興味や関心があつた授業はちゃんと覚えているんだ。

楽しい授業もあれば、眠たくなる授業もある。それは君たち生徒だけの問題ではないかもしれない。(教える側、つまり先生の問題もある)でも、残念ながら授業がつまらない原因を探っていても勉強ができるようにはならない。たとえそれが先生のせいだとしても、最低一年間は授業を変える事はできない。だったら先生を抜きにして、君自身が一人でも勉強をしめる方法を考えた方がいいんじゃないかな。もちろん、学校の授業が面白ければ言う事はない。そこで僕は君に各教科の勉強法を教えようと思う。

学校の授業を有意義なものにするには、各授業の意味とその使い方を知った上で授業に参加するのがよい、と言うのが僕の考えだ。簡単にだけどそれを説明していこう。

① 国語

意味・・・国語を勉強する大きな意味は「母国語(日本語)を使って他人に想いを伝える」こと、そして「日本語を通して他人の気持ちを理解する」ことだ。

多くの日本人は日本語によって相手に想いを伝えている。こうして僕が本を書いているのも日本語を使って書いている。日本語を話す、書く、読むという正しい使い方を学ぶのがま

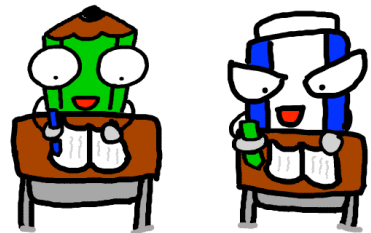
さに国語の勉強だ。

国語では物語文、説明文（評論文）、古文、漢文を題材として扱う。物語文からは登場人物の状況を想像し、相手の立場に立って心情を汲み取る、つまり思いやる練習をする。日本人的な優しさを学ぶわけだね。最近はライフスタイルの変化によって離婚して父子家庭、母子家庭で生活する家も増えてきている。それを自分とは関係ない、と言えない社会になってきているんだ。

そこで中学入試の問題などではそういった離婚問題や、いじめの問題、親がリストラされた話などが、入試問題としてよく出ている。そういった事からもわかるように、国語の授業では他人の気持ちに思いを馳せる練習をする。

また、説明文や評論文からは日本語で世の中を知る練習をする。日本人が何かを勉強するときに読む教科書は大体日本語で書かれている。つまり、僕は日本語によって世界を学んでいくんだ。それを国語と言う教科を通して練習する。説明文をちゃんと読めない人は、将来仕事を学ぶ時に、きっと「意味が分からない」と悩むだろう。日本語によってイメージや概念を受け取る練習をするために国語と言う教科あるんだ。

ほかよしがくえん
こくご



勉強法・・そんな国語の勉強法は大きく2つ。

まず物語文。物語文を読むときは「誰が」どんな事件をきっかけに「どんな気持ち」になつたかに気をつけて読むんだ。登場人物は大なり小なり何らかの事件をきっかけに気持ちが揺らぐ。その真情の変化を読み取るんだ。

例えばそれは君の日常にも当てはまる。君と言う主人公は普段何気なく生きているようで、実は非常に多くの「事件」に遭遇している。朝、目が覚める。眠たいなあ、学校に行きたくないなあという「辛い気持ち、嫌な気持ち」がそこにある。登校中、大好きなあの子に「おはよう！」と声をかけられる。「おはよう♪」と返す君の気持ちは、最高にハッピー……！

小説や物語は何気ない日常の出来事を「事件」へと発展させ、そこにまつわる人々の想いを描き出している。国語の授業ではそれを読み取っていくんだ。だから国語を勉強するとめっちゃLOVE OTHERSも磨かれるってわけだ。

次に説明文や評論文。これは世の中の事を説明しているから、筆者が「何」について説明していて、結局何を「言いたい」のか、それを読み取ることが必要になる。主題と結論ってヤツだね。

小学生では自分の身の回りにあるものを説明する文章を読む。モンシロチョウや渡り鳥の

秘密を文章を通して理解する。中学生になると少しずつ抽象的、つまり曖昧なものを説明する文章になり、高校生や大学受験の問題では日本芸術論とか、日本人の美意識の国際比較、といった形の無い、一見「なんだそりゃ？」っていうテーマの文章を読んでいく。具体的な例が無いからすごく難しいんだけど、小学生の頃の具体的なものを通して、説明文の「読み方」が分かっている人は、どんなにテーマが難解なものになっても、ついていくことができるんだ。

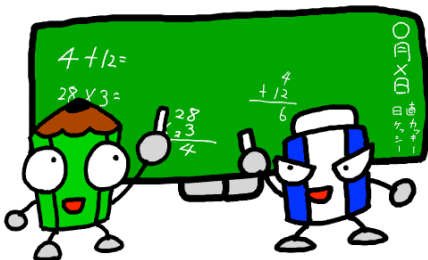
だからまずは今学校の授業で読んでいる文章が、「何について書かれているのか」、そして「結局筆者は何が言いたいのか」を考えてみよう。分からなければ先生にまずはそれを聞く。そこから国語の勉強が始まるよ。

②算数（数学）

意味・・・数学は大きく2つの分野に分かれる。数を中心とする「代数（数量）」と、形を中心とする「幾何（図形）」だ。この2つを通じて「数学的な考え方」を学ぶのが算数や数学の一番の目的だ。

数学的な考え方とはどういうものか。例えば君がお店に行く。1個100

たかよしがくえん
さんすう



円のアイスが特売で3個で200円だとする。君は一体どっちを買うだろう？また特売の方はいったいどれくらいお得なんだろう？もし君がお客さんじゃなくて、お店の人だったらどんな値段を付けるだろう？いくらで仕入れて、いくらで売るか？そしていくら儲けが出るか？そんなことを考えて頭の中でシミュレーションしていくのが数学的な考え方だ。それは君の身の回りに溢れている。

このバッテリーは今まで10本中3本はヒットを打っている。その確率からするともうそろそろ一発が出てもいいだろう。それが打率という考え方だ。

今回のテストは難しかった。山田は40点だし、佐藤は20点だ、だからお母さん、俺が42点でも怒らないでくれよ。これは平均と言う考え方だ。

この電車はいつも混んでいる。電車の床面積が20平方メートルに対し、100人も乗っているんだから無理も無い。これは面積と言う考え方と、密度と言う考え方を使っている。

日常で起こる変化を「数」や「形」を使ってパターン化し、今までこういう規則で起こっているから次はこうなるだろう、と予測を立てる。それが数学的な考え方だ。きっとそれは誰もが日々やっていることだろう。起こりうる可能性を分析し、将来の危険を回避していくには算数・数学の勉強は不可欠だ。

よく、「そんな難しい公式を覚えたって日常生活では何の役にも立たない」と言う人がいる。でも、それは間違っている。そんなことは全然ない。数学の分野で学ぶことは日常生活の色々な部分に活用されている。きっとその人は数学の使われ方を知らないだけなんだ。無理もない。数学は単なる数字と形が集まっているだけなんだもん。本来複雑な日常の現象を簡単にするために、数と形だけに置き換えて説明してくれていたが、今はむしろその「意味」の部分の誰かが気にしな過ぎて数学は嫌いな勉強のトップ3に入るようになってしまった（泣）算数や数学の意味を考え、使い方を学んで始めて算数・数学の勉強は完成する。まずはその意味と、日常生活での使われ方を知ろう。

勉強法・そんな数学の勉強をするに当たって、まず一番最初にすべきなのは「導入部分を読む」事なんだ。小学校の中学校の高校のも、教科書は最初のページにこれから学ぶ単元がどういふものなのかを説明している。それを読んで「意味」を知ろう。そしてそれから「使い方」である公式などを勉強していくんだ。

国語がじわじわとキライになる科目だとするなら、数学は瞬間的にキライになる科目だ。国語を嫌いになる人は「長い」「なんか意味がよくわかんない」と言う。数学を嫌いになる人

は、問題を見た瞬間に「無理」と言う。(笑)

だから数学の勉強では「段階を踏む」事と、解らない所まで戻って「やり直す」事が大事になるんだ。問題を見て「無理」と思う問題を何時間眺めていても答えは浮かんでは来ない。

(君が超能力者じゃない限り) その時は一つ前の段階に戻ろう。例えば、

$$y = 2x + 7$$

$$3y = 5x + 2$$

という問題がある。(中2で勉強する連立方程式の問題だ) これを見てすぐ解ける人は何の問題もない。でも、もし解けなければ中1の方程式のやり方まで戻ろう。

$$35 = 3x + 5$$

これも分からなかったら、小学校の割合の所まで戻ろう。

1分間に 3メートル進む亀は 10分で何メートル進みますか？

これが分からなかったら？その時は、まず足し算引き算、かけざん割り算という四則計算から徹底的に復習しよう。それぞれの計算がどんな意味を持つているのか、そこから勉強しなおせばいい。

やっぱり勉強はゲームに似ている。武器も弱い、レベルも低い、呪文も覚えていない。その状況でラスボスを倒しに行っても瞬殺されるだけだ（泣）その時はどうするか？今のレベルで倒せる敵がいる所に行つて、レベルアップを図るでしょ。コツコツコツ経験地を積み、武器を強化し、呪文を覚えてやつとラスボスに見合つた状態になれるつて訳だ。

数学も同じ。目の前の問題にぶつかつた時は、何とか乗り越えられるのか？それとも完全に無理だから後退するのか？を判断してほしい。戻る事は決して悪い事じゃない。僕は27歳で数学をもう一度やり直したんだけど、その時は小学校高学年まで戻つたよ（笑）割合や少数・分数という数の仕組み、面積・体積・表面積、色んな基本を学びなおした。そこから高校数学まで登つていった。分からない所をひとつずつ潰していけば、必ず分かる。それを自ら証明したんだ。

数学は面白い。やり方を考え、公式を使ってみて、「できた！」と言う瞬間は快感を感じる。僕は生徒と「キタ?」「キタ!」と言い合いながら問題を解いている。君も「キタ!」を体感するためにまずは自分の位置を見つけよう。そこから一つずつ山を登っていけばいいんだ。

③ 英語

意味・英語を勉強する意味はもちろん「英語を使う人とコミュニケーションをとる」事だ。でも、恐らくみんな勘違いしている。英語でのコミュニケーションを「英会話をやる」事だけだと思っているんだ。確かに英語を使って「話す」事は外国人とコミュニケーションをする上でとても重要な要素になる。でも、コミュニケーションとはそれだけではない。

学校の英語は英会話を教える事を目的としていない。だからどんなに英会話を練習しても大学入試の問題は解けない。なぜか?それは大学が求める英語力とは、英語の文献を読んで、外国の進んだ学問を勉強できる資質を問うているからだ。大学では英語を使って文章を「読め」なければならない。先生が英語で行う授業を「聞い」て理解しなければならない。そして最終的には英語を使って自分の考えや論文を「言え」たり「書け」たりしなければならない。

ほかよしがくえん
えいご



いんだ。

多くの人はそれを勘違いしている。外国に観光に行つて簡単な英語を話せるようになるために英語を勉強していると思つてゐるんだ。でもそれなら英会話の学校で十分だ。わざわざ学校で、これだけ時間をかけてやらなくてもいい。それに、この勘違いが多くのえいご嫌いを生んでいる事も知つておいてほしい。

僕自身、英語がものすごく苦手だった。それもそのはず、僕の中学校ではひたすら英文を暗記させられた。毎日毎日同じ英文を何度も暗記し、意味も分からないまま、英語の文だけが頭に残つた。教科書一冊丸暗記に近い状態で何とか高校入試を突破したが、高校では全然英語についていけなくなつてしまつた(泣)

例えば、中学1年生でこんな文を覚えさせられる。

Hi, Nancy. How are you?

I. m fine, thank you. And you?

I. m fine, too.

こんな会話、そう滅多にあるもんじやない(笑)

僕らは日本語を話すことができる。でもそんな日本語ですら「話す」以外の要素、「読む」「書く」ができるようにと、国語の授業で文法を勉強する。ましてそれが外国語である英語ならば、ちゃんと文の作り方を勉強しないと、その言語を使えるようになるわけがない。一番面白い例はほとんどの生徒が「am」や「is」といったBe動詞の意味を答えられないことだ。その意味がわからないで使うから、「ドゥーユープレイテニス？」って聞かれても「イエス、アイアム」と答えてしまう。みんな何となく英語をかじって、勉強した気になっっている(泣)

僕が受け持つ生徒で、小学校の頃英会話教室に行っていた子はたくさんいる。でも、彼らは大体中2くらいで英語に挫折する。小学校と同じように会話で全部覚えていこうとすると、不定詞や現在完了や関係代名詞といった高度な文法、文章を読むための文法についていけなくなってしまうからだ。僕は高校時代、先生の薦めで英文法を一から学びなおしてようやく英語の文がどういう構造で出来ていて、どういう意味を持っているのかがわかった。そして大学で英文学を学び、もっと英語の世界を理解した。だから僕は今、生徒達に英文の暗記はさせない。ちゃんと英語の構造や文法の意味から説明し、生徒の「ここはどう訳したらいい

の?」「こういう場合は何て言ったらいいの?」にちゃんと答えている。そうすることで生徒達は英語が「使える」ようになっていく。

わかったかな。このように英語を勉強する意味は、将来英語を使って学び、英語を使って仕事をし、英語を使う人達の文化や考え方が解るような人間になっていくために、英語の使い方、つまり、「読み方」「書き方」「話し方」を学ぶと言う事だ。

勉強法・・・ではそんな英語の勉強法はというと、まずは英文法を理解する事だ。いまじゃ私立の中学や高校では英文の暗記なんてさせなくなっている。でも公立の学校では、相変わらず丸暗記で昔の僕のような英語嫌いを生み出し続けている。どんなに外国人の先生を呼んでも、用意された文を発音しているだけでは自分で文を作るようにはならない。文法というルールに従って、自分の頭で単語を組み立ててこそ、英語を使ってコミュニケーションを取れるのではないか。

だから僕は英文法を徹底的に理解させる。それは何も受験のためではなく、「英語をコミュニケーションの道具」として使うためだ。

例えばBe動詞、「am」や「is」や「are」といった単語がある。その違いは何か?

また、「apple」は「りんご」と訳すがBe動詞は一体何と訳すのか。そこから勉強する。僕が授業中に生徒に質問する。

「Be動詞って何？」

「am、is、areです。」

「それは「何」じゃなくて「種類」でしょ。Be動詞の意味は何？」

「え？「私は」とかですか？」

「私は、は「I」だよ（笑）じゃあまずはBe動詞の意味から勉強しようか。」

こんな感じだ。今の日本の英語教育は、学校では英文を暗誦によって丸暗記させられ、塾では受験のテクニック用に文法問題を解きまくっている。それだけ英語を勉強しているはずなのに、一向に英語が使えるようにならない。むしろ嫌いになっていく。それはこのやり方が間違っているからだとは思わないか。

英語を勉強するやり方は英文の「意味」をとことん考える事。日本語だって単語がバラバラに並んでいるわけではない。

彼と ラーメンを 今日 行った 食べるために 私は 新宿へ。

と言う文を見たら君はどう思う？単語はあっているけど並べ方がメチャクチャだ（泣）これじゃあ意味がわからない。それを正しく直すのが、文の法則、すなわち文法なんだ。

私は 今日 彼と ラーメンを 食べるために 新宿へ 行った。

これで意味が通じるね。これと同じルールを英語からも学んでいこう。一番大事な基礎中の基礎は「主語」と「動詞」を理解する事。誰が、どうした、の部分を常に意識しながら勉強していこう。

そして単語、身の回りの単語を覚えることはもちろん、本を読んで出てくる専門用語も勉強していこう。「green house effect」（地球温暖化）とか「astronaut」（宇宙飛行士）とか教科書に出てくる単語を勉強する事で、英語を通して世界を知ることができる。

文法と単語、それを徹底的に学び、読む書く話すを実践する。それが正しい英語の勉強法だと僕は考える。

④ 社会

意味・・・僕たちは「地球」という星に生きている。地球の中には人間が作った「世界」がある。世界の中には「国」や「民族」が多数存在し、それぞれが異なった文化や言語、風習で生活している。

社会と言う教科の意味は、まず「自分の国、すなわち日本の地理や歴史、政治の仕組みを学び」、それと比較して「外国の地理、歴史を通して異文化を学ぶ」ことにある。そして社会を学ぶ事で、国際社会で活躍できる人間を育成する、というのが社会科の大きな意味だ。

君がもし将来国際社会で活躍する様になって、多くの外国人と付き合うようになったら相手の国の言葉、相手の国でよく食べられている食べ物、相手の国の位置、歴史などを知っておいた方がもっと仲良くなれるだろう。

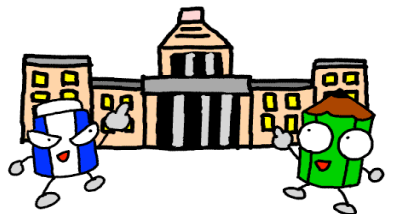
「ワタシ納豆タベルノニ最近ハマッテイマス」

「私ハコノ夏、東北ヘイッテ奥の細道ヲタドッテキマス」

「アナタノ出身ハドコデスカ？オオ千葉デスネ。ラッカセイ有名デス」

こんな外国人がいたら、親近感が沸くだろう（笑）同じように君がいつか外国の人と出会った

ほかよしがくえん
しゃかい



ら、その国の事をちよつと知ってるだけで付き合ひの深さが全然違ってくるんだ。

社会は地理、歴史、政治経済と3つの分野に分かれるんだけど、地理には日本地理と世界地理があり、歴史にも日本史と世界史がある。政治経済は学校では日本のものが中心だけど、国際連合などの国際政治やグローバル化による世界経済なども一緒に学ぶ。

このように社会科は、日本と世界の人々の生活の様子、すなわち「社会」を学ぶ科目なんだ。

勉強法・社会科はどのように勉強したらいいか。ここにも多くの人の誤解がある。

「社会って暗記科目だから覚えればいいんでしょ。」

社会科は暗記科目、用語だけとりあえず覚えておけばいい。でもたくさん用語が出てきて、覚えきれない。だから嫌いになる。僕の所に相談に来る生徒は大抵そんな状況だ。

僕は前にも言ったように、無意味に覚える事に意味はないと考えている。そもそも人間は無意味なものなど覚えておけるはずがないんだ。じゃあ歴史や地理は無意味なものか、というとなんかそうじゃない。同じ世界、同じ時代に生きる人達の存在を抜きにしてLOVE O THERSは成し得ない。だからここでも「ちゃんと本質を理解」する事が必要になるんだ。

社会科で一番大事な勉強法は「フィールドワーク」と呼ばれる検証の作業だ。一つの用語が出てきたら、それを自分で本当かどうか確かめてみる。

例えば地理を勉強する場合、現地に行くのが一番分かりやすい。青森県の特産物は？そう！りんごだ。秋に青森を訪れると真っ赤なりんごがあちこちで実っている。その状況を見れば「青森と言えぱりんご」というのは暗記事項ではなく、当然の知識となる。君が食べているりんごがどこで取れたものなのか？そこに興味を持って調べてみることから社会の勉強を始めてみよう。え？歴史はどうするかって？

歴史は確かに今となつては調べようがないものばかりだ。でも、遺跡や史料から歴史を検証した本、漫画がたくさん出ている。それを読む事で当時の時代がどんなものだったか疑似体験する事ができるんだ。今はインターネットと言う強い武器も君の学習を応援してくれる。もちろんこれから発表されるなかよし学園の教科書も全て現地取材に基づいて書かれているから、そういった道具を使いながら歴史を体験していけばいいんだ。

君が今までで行った場所の事を、覚えようとしなくても覚えているのは「体験」したからだ。去年行った京都の旅行で金閣を見た。すごく光っていた。忘れてくれ、つて頼まれても忘れる事はできないだろう。それならばその金閣は誰が作ったのか、いつできたのか、何のため

に作られたのか、そういう疑問を自分で調べて検証していくんだ。そうすればもともっと知識は膨らんでいく。

もちろん僕もそうやって勉強している。僕は昔、タイタニックと言う映画に魅せられて色々な本を読んで当時の時代背景を調べたり、自分がタイタニックに乗船したつもりになって勉強した。それで色んな事を知る事ができ、今でもそう簡単には忘れない知識を手に入れた。他にも明治維新や太平洋戦争（大東亜戦争）と言う歴史に興味を持ち、史跡や博物館をあとこち訪ねる中で、その時代に生きた人々の熱い想いに感動し、涙し、同じ人間として彼らの生き様を感じることができた。

学生の君にその全てをしてほしいとは思わない。でも、一つ一つの体験を社会の勉強に役立てる方法を知っておいてほしい。そのために学校は林間学校や修学旅行、遠足、社会化見学など、現地に行つて勉強させているんだから。教えられた事を鵜呑みにせず、自分の目で頭で確かめてみよう。それが社会の一番の勉強法だ。

⑤理科

意味・・・僕たちの周りには多くの人間がいる。でも、この地球上に存在するのは人間だ

けじゃない。人間の数を大きく上回る生物がいる。微生物、魚、トカゲやワニ、カエルに鳥だって。動物だけじゃない。花や樹々もたくさんこの地球上で生活しているんだ。そしてどの生物も自然の法則に従って生きていく。どの生物も地球上に生まれ、成長し、やがて死ぬ。そんな命と命は密接に関係を持っている。そんな「自然界の法則」を学ぶのが理科と言う科目だ。

理科は大きく4つの分野に分かれる。「生物」「化学」「物理」「地学」だ。

「生物」は人間とそれ以外の動物、植物などを学ぶ。その種類や仕組みを学ぶんだ。植物の体のつくりや光合成と言う仕組みを学んだり、人間の体の中はどんな構造になっているか、どの部分がどういう働きをしているのかを学ぶ。

僕らはみんな心臓や肺や胃などの臓器を体の中に持っている。それは一体どういう働きをしているのか。全ての生物は「細胞」という小さなパーツから出来ている。その仕組みはどうなっているのか。「カエルの子はカエル」と言うように、親から子へ、その特徴が受け継がれるのはどうしてだろうか。こんな疑問に答えてくれるのが生物の勉強だ。

「化学」は物質の仕組みと変化を学ぶ分野だ。地球上には様々な物質が存在する。僕らの体

ほかよしがくえん
りか



は60パーセントの水分と、炭素やカルシウム、ナトリウムやカリウムなどの様々な物質から出来ている。僕らが休みなく吸っている空気は、78パーセントの窒素や20パーセントの酸素から出来ている。またパソコンや携帯電話にはシリコンと言う物質を使った半導体が使われているし、窓ガラスはケイ素と言う物質の化合物からできている。他にも、宝石として有名なダイヤモンドは実は炭素と同じ仲間だったというように、知ってるつもりのも道具でも、それを作っている原子のレベルまで考えると、知らない事がたくさんある。

化学を勉強して、身近な物を構成する「部品」を勉強する事で、それをもっともつと面白く、便利に活用していく事ができるんだ。これが化学と言う分野だ。

「物理」は自然界の「物が動く」法則を勉強する分野だ。物はどうして地面に落ちこちるのか。橋はどうして落ちないでいられるのか。船はどうして水に浮くのか。電気はどうして明るのか、熱を持っているのか、ビリビリして来るのか。(笑)車はどうして動くのか。そんなモノの動きに関する「なぜ？」に答えてくれる分野だ。

物理の仕組みも身の回りに溢れている。例えば「てこ」の仕組みを使ってはさみや爪切りなどの道具が生まれた。公園にはシーソーと言う遊具があるし、ボートを漕ぐ仕組みも、てこを利用して「モノをどうやったら効率よく動かせるか」を考える勉強が物理と言う分

野なんだ。

「地学」は地球惑星科学の略語で、地球と言う僕らが生きる舞台そのものを勉強する。地球はこの広い宇宙の中でどこに位置しているのか。太陽や月や星は、地球とどう違うのか。そんな天文の勉強をする。

また、地球そのものが起こす自然現象を分析するのも地学の分野だ。地震や津波はどのようなメカニズムで起こるのか。地球の中心には一体何があるのか。そんな疑問に答えてくれる。

理科はこのような4つの分野から成り立っている。目では見えないものすごく小さい原子の世界から、地球や宇宙といったものすごく大きな世界まで、僕らを取り巻く世界を勉強するのが理科という科目なんだね。

勉強法・理科も社会同様、暗記科目に数えられる事が多い。でも社会の勉強法で言ったように、暗記では絶対理科が好きにはならない。理科もやっぱり「ちゃんと本質を理解すること」とそのために「フィールドワーク」を行う事が最も大事なんだ。

最近学校から「実験」が消えているという話をよく聞く。僕が昔小学校や中学校でやった

実験を、今の子ども達はやらないう。実験ではなく、本を読むだけでそれを理解しようとしているらしいんだ。

僕の頃は小学生にとつて理科は体育や音楽の次くらいに好きな科目だった。水を酸素と二酸化炭素に分解したり、ムシメガネで火をつけたり、色んな実験を通して僕らは、

「へえ！すげえ！何でそんなことが起こるんだ？」

と好奇心を燃やしていた。でもそんな僕らも中学、高校になって段々実験が少なくなり、驚きが少なくなると、学んでいる内容にイメージが湧かなくなるから、理科が嫌いになっていった。今の子ども達はそんな「理科嫌い」を僕らの頃よりも早い段階で経験しているんじゃないかな。

理科は身の回りの物質世界を学ぶ教科だから、それを自分の目で確かめてみて初めて理解ができるというものだろう。それを危なくないように実験させてくれるのが学校という場だった。今じゃ学校にその役割がなくなり、子どもたちは塾などで紙と鉛筆だけでそれを頭に入れようとしている。志ある先生達はそんな状況を憂いて「実験教室」を開催してはいるがまだまだ浸透していない。

そこで僕がオススメする勉強法は、博物館を利用する事だ。博物館には面白い実験をやっ

てくれる所が多い。僕の通った高校の近くには現代産業科学館と言う博物館があり、そこでマイナス196度の液体窒素でバナナや花を凍らせる実験を見せてくれたり、リニアモーターカーの原理である超伝導を見せてもらったりした。教科書で読んでイメージがわかず、意味も解らなかつた事が「なるほど！」に変わる。「百聞は一見に如かず」と言うことわざ通り、自分の目で見る、試して見る事が大事なんだね。

理系の大学に進むと、日々実験の連続だ。白衣を着た学生達は勉強した事を自分達の目で確かめ、そこから新たな仮説を立て、またそれを実験によって証明していく。そうやって研究された技術がやがて道具となって僕らの生活に登場する。未来の科学者を生み出すためにも、理科嫌いを無くすためにも、実験は欠かせない勉強法なんだ。

ここから実技科目に入るよ。実技科目はこれまで説明した筆記科目とは違い、技術そのものを習得することができる。だから実技科目の勉強法は全て「自分の体を使ってやってみる」こと、それしかない。ただ、意味も分からずにやっついては効果が薄くなってしまうのでそれぞれの科目がどんな意味を持っているのかを説明しよう。

⑥ 体育

意味・・・心と体は一つのものとして人間の体にある。どれだけ優しい心を持っていても、それを行動に移して実行できなければ、持つてないのと同じだ。筆記の授業がその優しさや情熱という心を学ぶものだとなれば、体育という授業はその行動力を学習する教科だと僕は思う。

優しい心と言うのは実際に行動してみて初めて体と一つになる。誰かにLOVE OTH ERSを与えたという経験は、もともと人と人に大きな愛を与えたいという動機になる。だからそれを授業を通じて生徒達に感じてほしいんだ。

体育という教科では色々なスポーツを行う。君もソフトボールや、バスケット、サッカーなど、様々な種目を経験してきたはずだ。体育の時間に球技をやるのは別に授業の中からトップアスリートを出そうと言うわけではない。本当にそのスポーツが得意な子は、スポーツ少年団やリトルリーグ、少年サッカーリーグなど、そういう子が集まった場所で技術を磨けばいい。週に数回しかない体育の授業ではなく、放課後毎日のように活動している場所での種目に磨きをかければ、きつといい選手に成長していくだろう。

じゃあ体育の授業でスポーツ、特に球技を行う理由は何だろう。最初に説明したように、

体育と言う授業は「心と体の一体化の練習」のために行っている。頭で理解した「LOVE O THERS」を実際に行動に移すための勉強だったね。それをやるのに一番いいのが、チームプレーを中心とする球技なんだ。

クラスの中には運動が得意な子もそうでない子もいる。体育と言う授業の中では、そんなみんなが「チーム」として一つのまとまりを作る。ここではみんなが、それぞれの技量に応じて協力して取り組んでいく必要が生まれる。得意な子は苦手な子にやり方を教え、苦手な子も技術を磨こうと一生懸命になる。そうして協力した成果はチームの力となって現れ、それぞれがその結果を実感することができる。そんな活動の中で生徒達は協力の意味や必要性を学ぶんだ。

例えばバスケットが得意な子が、授業中に自分だけボールを持ってシュートを何十点も決めたとする。一方同じチームでバスケットが苦手な子は、ボールも回ってこないからコート隅っこで座っている。こんな状態では座っている子はもちろん、何十点もシュートを決めた子だって「体育の」成績はよくならない。「協力」がないからだ。

クラスという団体はその種目が得意な子が集まった集団ではない。バスケが得意な人もいれば野球が得意な子もいる。運動よりも音楽が好きの子もいる。それを理解して、得意な人

も苦手な人も「みんなで一つの目標に向かう」という姿勢をそれぞれが磨いていく事が、この授業の最大の目的なんだ。

一人の人間には限界がある。仮に君と言う人間がもし10の力をもっていたとしても、周りの4人が0ならば合計は10にしかない。でも、君がもし0の仲間を育てて、4くらいに力を引き出す事が出来たら、君の力がたとえ6になったとしてもチームの合計は22となり、前よりも全然いい結果が出せる。チームと言うのはそういうものだ。学校のクラスも部活動のメンバーも、会社の同僚や家族、友達だって、集団と言うのは協力してこそいい結果が出せるんだ。そんな「協力」を体を使って試すのが体育の大きな目的だ。君はちゃんとそれを練習しているかな。

⑦ 技術・家庭科

意味・・・ 技術・家庭科という科目は実際に君が生きていく上で必要となる基礎的な技術を学ぶ授業だ。技術では工具を使って物を作ったり、家庭科では食べ物を調理し、料理を作ったり、布を使って服を作ったりする。

役割分担が進んだ今の社会では大抵のものはお金を出せば手に入る。しかも百円ショップ

などの登場で、安くいものを手軽に手に入れることができるという便利な世の中になった。だからもしかしたら、一生包丁を握らない、一生トンカチ（正しくは「げんのう」という）を使わないなんていう人もいるかもしれない。

でも、そうやって人任せにしていると、いざその技術が必要になった時できなくなってしまう。君は幼稚園や小学校に「雑巾」を持っていったらどう？各自、お母さんがタオルを縫い合わせて作ってくれた雑巾を使って掃除をしていた。でも最近じゃ裁縫が出来ないお母さんが増えているらしい。だから使い古したタオルよりも、真新しいお店で買った新品の雑巾が増えてきている。社会全体ではエコエコ騒いでいるのに、掃除用の雑巾ですら作れなくなつた国を君はどう思う？

また、朝食を食べない子どもが増えているという話も良く聞く。コンビニ飯ばかり食べている子供の話もそうだ。今子ども達の食生活が乱れている。食生活の衰退とキレ易い子ども達には因果関係があると指摘する研究者もいる。カップラーメン、惣菜パン、レンジでチンするスパゲティに、飲物はコーラやジュース、小さい頃からそんなものばかり食べている子どもたちは無事に大人になれるのだろうか（泣）

そういった意味でも技術や家庭科の授業を学ぶのは大きく役に立つ。簡単な工作や調理、

裁縫という「生きる」技術を学び、自分でそれをやってみる事で生きている事を実感できる。そしてもう一つ、その生きるために必要な作業を、自分の代わりにやってくれているお父さんやお母さん、給食室のおばちゃんや用務員さん、社会の大人達に感謝の気持ちを持つという事も大事な要素だ。自分にはできない事をやってくれる人がいるというのはとてもありがたい。そのおかげで自分の仕事に集中できる。

一昔前は、自転車のパンクはお父さんが直していた。椅子やテーブルなんかも日曜大工でお父さんが作っていた。夏休みのキャンプの主役はお父さんだった。火を起こしたり、テントを張ったり、お父さんは「何でも」できた。それが今やお父さんは「何でも買える」人になり下がってはいないだろうか。僕もこの点には注意している（笑）

めんどくさがって買ってしまうよりも、できるだけ自分で出来る事は自分でやろうと思う。最近では組み立て式の商品も結構多い。僕はこの前、娘の三輪車を一晩かけて組み立てたよ。朝、組み上がった三輪車を見て、娘が

「コレ、おとうさんがつくったの？すごいねー。おとうさんすごいねー。」
としきりに言っていた。僕ももちろんうれしかった。君がお父さんやお母さんになる頃に、君の子どもに「すごいねー」と言われるためにも、技術や家庭科の授業で「物を作る練習」

をしておこう。

⑧ 図工（美術）

意味・・・小学校の図工や中学高校の美術と言う科目は「豊かな感性」を磨く教科だと言える。技術や家庭科が生活手段としての造形だとするなら、図工や美術は心の中に思い描いたイメージの造形だ。それでお腹がいっぱいになるわけではないけど、心は豊かさで満たされる。お金と物欲にまみれた今の世の中には一番必要な科目かもしれない（笑）

僕が昔見たアニメに「フランダーズの犬」という作品がある。貧しくも正直に生きている少年ネロは、寝たきりのおじいさんの世話をしながら牛乳を運んで生計を立てていたんだ。ネロは絵が好きだった。どんなに貧しくても、絵を描き、美しい世界を表現する事で、ネロの心が荒むことはなかった。

でも、そんなネロに次々と不幸が訪れる。街から来た牛乳業者に仕事を奪われ、風車小屋の火事の際には濡れ衣を着せられてしまう。さらにクリスマス数を数日後に控えた日に、唯一の味方だったおじいさんが亡くなり、クリスマス前日には家を追い出されてしまう。もはや絵を描くことも許されなくなった状況で最後に少年ネロが向かったのは「大聖堂」だった。

そこにはずっと憧れていたルーベンスの絵があった。ネロは愛犬パトラッシュと共にその絵を見ると、静かに息を引き取った。ネロは微笑みながら天国へ旅立っていった。

ネロが描いてコンクールに出していた作品はネロが亡くなった後に評価され、誰もがその死を悔やんだ。ネロをいじめていた風車小屋の主人は、お金もなく空腹に耐えていたネロが自分の全財産の入った財布を警察に届けてくれていた事を知り、その心の優しさと自分が今まで行ってきた仕打ちに後悔の涙を流した。

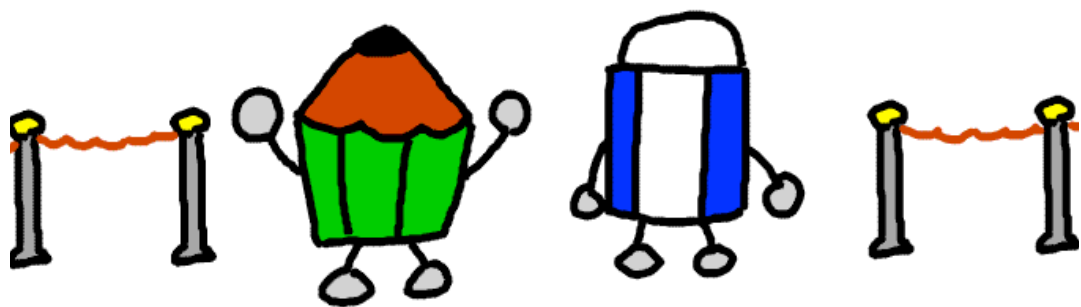
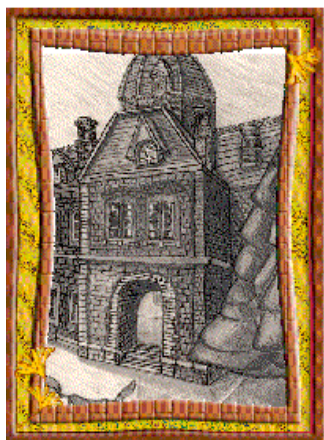
僕はこの作品を見て泣いた。感動した。そして絵を描いたんだ。道具も買えず素晴らしい技術を持ちながら亡くなっていったネロ。僕の周りにはネロが欲しくても手に入れられなかった道具がたくさんある。だから描こう、造ろう、そう思った。今でも時々絵を描く。あの頃磨いた技術がまだ残っているのを感じる。その度に僕はネロを思い出す。

美術や図工と言う教科を学ぶ意味は、きつと「美しいもの」に触れ、自らも「美しいもの」を生み出す練習をすることにある、と僕は思う。絵にしても工作にしても、心の中に美を感じ



ネロが最期に見たルーベンスの絵。本当に美しい物は人の心を美しく、豊かにする。たくさん美しいものに触れたい。

じてそれを表現したいという欲求があつて初めて始まるものだ。美しいものにたくさん触れ、
人間的な美意識を学ぼう。



⑨ 音楽

意味・・・この世界には約200の国がある。(国際連合の加盟国は192カ国)そしてそれを上回る、数多くの民族がいる。メチャクチャたくさんのも多種多様な人間がこの地球にはいるんだけど、みんな音楽を持っているんだ。みんなって、全員？ そう！全員だ。どの国家でも、どの民族にも、音を奏でてリズムを作ったり、メロディーに乗って歌ったり演奏するという「音楽」という文化がある。逆に言えば音楽のない人間なんていないってことだ。

そんな音楽も図工・美術と同様、心の中にある想いを表現する手段だ。旋律の美しいクラシック音楽から、若者の熱い魂の叫びをメロディーに載せたロックミュージックに、日本の心を歌った演歌と、色んな音楽がある。音楽の授業では様々な音楽を鑑賞し(聴いてみる)、演奏し(自分でもやってみる)、合唱していく(声を合わせて歌う)。

スポーツと同じように合唱コンクールや演奏会ではクラスが一つになって、一つの音楽を作り上げる。得意な子が苦手な子をカバーし、呼吸をそろえて、リズム、音程、ハモリと色んなワザで魅せる。ここでも協力が生まれているから、合唱コンクールなどで優勝すると、思わず感動して泣いてしまう人もたくさんいる。

学校の音楽はクラシック音楽が中心で面白くないと思いがちだけど、最近はSMAPの「世

界に「つだけの花」やThe BOOMの「島唄」、ZARDの「負けないで」など普段CDを買って聴いているような曲も続々と音楽の教科書に入ってきている。まさに、いい音楽にはジャンルも国境もない、ってことだね。音楽は世代を超え、国を超え、共に歌う者の心を震わせるパワーを持つ。スポーツの大会の前に国歌を歌うのも、入学式や卒業式で校歌を歌うのも、その表れだ。(もちろん、なかよし学園にも「LOVE OTHERS」という校歌があるよ)音楽によって心を露にし、仲間と心を通わせる、そのために学校では音楽を勉強するんだ。



⑩ 授業の受け方

最後に度の教科にも通じる「授業の受け方」についても説明しておこう。まず授業を受けるに当たっては「予習」をどれだけしているかが大きな違いを生む。でも多くの人は予習の意味を勘違いしているんだ。

みんなは予習を「前もって勉強して問題を解いてくる事」だと思っている。でも考えてみてよ。授業も受けていないのに内容が分かっちゃったら、学校で先生の説明を聞く必要ないじゃん（笑）

予習と言うのは「分からない所」を事前に見つけておくこと。教科書を読んでみて、これは意味が分からない、と言う部分を見つけ、目立つように線を引いておく。本当に全部だったら全部分からないでもいい。まずは予習で「何」が分からないかを明確にしておこう。それを授業で聞きながら理解すればいい。もし授業を聞いても分からなければ先生に質問する事だ。これが予習というもの、何を勉強すべきかを知る勉強だ。

次に授業中。授業中は先生の説明を聞きながら黒板の板書を「写す」のではなく「描く」んだ。それは例えるなら絵を描くように、先生の板書を参考にしながら、先生のしゃべった言葉や自分が思った事を書きとめていく。そうやって自分専用のオリジナルノートを書き上

げていくんだ。

そしてそれを家に帰って見直せば、授業中に学んだ事、疑問に思った事がありありと蘇ってくる。

そうそう、コレがよく分からなかったんだっけ、調べてみよう。

今日はこの公式の使い方を勉強したんだ。もう一回復習しておこう。

そんな風に授業を何度でも再現できるノートがいいノートだ。その書き方は十人十色。自分にとって見やすく使いやすいノートを作ろう。一つだけアドバイスするとすれば、「分かった事」と「分からなかった事」がはっきりと目立つノートがいいノートだ。それさえ書いてあればいくらでも後から勉強しなおすことができるからね。

ノートをとるのは、習った事を覚えるためではなくて、「どのように」使ったら言いかをメモしておくためだ。だから授業中はひたすら「どうやって」を考えるようにしよう。

どうやってこの公式を使えばいいのか？どうやってたらこの問題が解けるのか？どうやってこの実験結果が生まれたのか？色んな「どうやって」を授業で解決していこう。

最後に授業の後、どうやってを知った後は、家で「なぜ」をじっくり考えよう。なぜこういう結果になるのか、なぜこの争いは起こったのか、色んななぜが頭に浮かぶ。それを自分

で調べて解決してみよう。本やインターネットを使ってもいい。徹底的に「なぜ」の部分にこだわって、納得するまで調べてみよう。

そうやってなぜを知った君は、その勉強を本当に理解したと言えるだろう。そうすれば後は練習問題を解いてテストに備えるだけだ。

「WHAT(何)」「HOW(どうやって)」「WHY(なぜ)」。この三段階のステップで授業を受ければ本質を知る勉強ができる。それは決して簡単な事ではなくメチャクチャめんどくさい道かもしれないけど、僕はこれが勉強の王道だと信じている。また僕自身も先生として生徒には

「WHAT」・・・何を勉強すべきか。学ぶ内容を教える。

「HOW」・・・どうやってやればできるようになるか。やり方を教える。

「WHY」・・・なぜそうなるか。その勉強の仕組みや、からくりを教える。

この3つを教えるよう心がけている。友達や親はWHATかHOWしか教えてくれないだろう。何をやったらいいか、どうやったらいいか、そこまでが限界だと思う。

でも先生はWHYを教えてくれる。なぜそうなるのか生徒の素朴な疑問を解決してくれる。それが本当の先生だ。もし君がそういう人に出会えたら最高に幸せだ。そういう先生が勉強

が好きになる生徒を育てると僕は思う。だから僕は自分自身がそんな本物の先生になれるように、W H Yまで教える事を心がけて日々授業をしているんだ。

授業の3ステップ、「W H A T (何)」「H O W (どうやって)」「W H Y (なぜ)」覚えていてね!